

Sun Java™ System Application Server 7 リリースノート

(旧称 Sun ONE Application Server)

バージョン 7、Update 5

Part No. 819-0934

2004 年 10 月

このリリースノートには、Sun Java System Application Server, Version 7 (旧称 Suna Open Net Environment (ONE) Application Server), Update 5 のリリース時における重要な情報が含まれています。

注 このドキュメントおよびマニュアルセットに含まれる他のマニュアルで、本製品は、「Sun ONE Application Server」という旧称で呼ばれていることがあります。

本書には、拡張機能、インストール時の注意、既知の問題、および最近見つけたその他の問題点が記載されています。Sun ONE Application Server 7, Update 5 を使用する前に、このリリースノートと関連マニュアルをお読みください。

本書の構成は次のとおりです。

- [リリースノートの改訂履歴](#)
- [Sun ONE Application Server, Version 7, Update 5 について](#)
- [このリリースで修正されたバグ](#)
- [重要な情報](#)
- [既知の問題と制限事項](#)
- [再配布可能なファイル](#)
- [問題の報告およびフィードバックの方法](#)
- [補足情報](#)

リリースノートの改訂履歴

この節では、Sun ONE Application Server 7 製品の最初のリリース後に、リリースノートで変更が加えられた箇所について示します。

表 1 改訂履歴

日付	変更の詳細
2004 年 10 月	Sun ONE Application Server 7, Update 5 の初期リリース

Sun ONE Application Server, Version 7, Update 5 について

Sun ONE Application Server 7 は、広範囲にわたるアプリケーションサービスと Web サービスの配備に適した、優れたパフォーマンスの J2EE プラットフォームを提供します。

この節では次の項目について説明します。

- [Sun ONE Application Server 7 の新機能](#)
- [要件と制限事項](#)

Sun ONE Application Server 7 の新機能

Sun ONE Application Server 7 の新機能については、『Sun ONE Application Server 新機能』を参照してください。URL は次のとおりです。

<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>

この更新版での変更部分については、[6 ページの「このリリースで修正されたバグ」](#)を参照してください。

要件と制限事項

Sun ONE Application Server 7, Update 5 製品でサポートされるプラットフォームについては、『Sun ONE Application Server プラットフォームの概要』を参照してください。URL は次のとおりです。

<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>

この節では次の項目について説明します。

- プラットフォームの要件
- Solaris パッチ
- Solaris x86 の制限事項
- 日本語版および簡体字中国語版 Sun ONE Application Server のインストールおよびアップグレード

プラットフォームの要件

Sun ONE Application Server 7, Update 5 の要件を次の表に示します。詳細なプラットフォームの説明は、『Sun ONE Application Server プラットフォームの概要』を参照してください。URL は次のとおりです。

<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>

表 2 Sun ONE Application Server のプラットフォームの要件

オペレーティングシステム	アーキテクチャ	最小メモリー	推奨メモリー	最小ディスク容量	推奨ディスク容量
UNIX					
Sun Solaris 8 または 9 SPARC 版	32 ビット / 64 ビット	256M バイト (Sun Java Studio を使わない場合)	512M バイト	250M バイト	500M バイト
Solaris x86 パージョン 9	32 ビット	512M バイト (Sun Java Studio を使用する場合)			
Red Hat Linux 7.2、7.3					
Red Hat Enterprise Linux 2.1、3.0					

表 2 Sun ONE Application Server のプラットフォームの要件 (続き)

オペレーティングシステム	アーキテクチャ	最小メモリー	推奨メモリー	最小ディスク容量	推奨ディスク容量
Microsoft Windows					
Windows 2000 Advanced Server、SP2	Intel 32 ビット	256M バイト (Sun Java Studio を使 用しない場合)	256M バイト (Sun Java Studio を使 用しない場 合)	250M バイト	500M バイト
Windows 2000 Server、SP2		256M バイト (Sun Java Studio を使 用する場合)	512M バイト (Sun Java Studio を使 用する場合)		
Windows 2000 Professional、SP2					
Windows XP Professional					

Solaris パッチ

Solaris 8 システムには、次の URL の「パッチサポートポータル」から「推奨 & セキュリティパッチ」に記載されている Sun 推奨パッチクラスタをインストールする必要があります。

<http://jp.sunsolve.sun.com/>

Solaris 8 システムには、パッチ番号 109326-06、108993-23、およびパッチ番号 110934 のパッチを必ずインストールしてください (全リビジョン対象。パッケージベースのインストールのみ)。これらの必須パッチは、インストーラによってチェックされます。これらのパッチがインストールされていないと、Sun ONE Application Server をインストールすることも実行することもできません。最新の推奨パッチクラスタには、これらのパッチが最初から含まれています。

Solaris x86 の制限事項

- Sun ONE Studio プラグイン - Sun Java Studio は Solaris x86 プラットフォームでは使用できないので、Sun Java Studio プラグインはこのリリースには含まれません。
- Solaris のサポート - Solaris x86 リリースは、Solaris 9, Update 2 以降だけでサポートされています。それ以前のバージョンの Solaris ではサポートされていません。
- Java™ Smart Ticket Sample Application は、Solaris x86 プラットフォーム上では動作しません。サンプルアプリケーションを使用するには、Solaris 9, x86 では使用できない Java 2 Platform, Micro Edition Wireless Toolkit (v1.0.4) が必要です。

日本語版および簡体字中国語版 Sun ONE Application Server のインストールおよびアップグレード

Sun ONE Application Server 7, Update 5 には、日本語または簡体字中国語の独立したリリースはありません。既存の Sun ONE Application Server がある場合は、英語版の Update 5 にアップグレードする必要があります。Update 5 にアップグレードした後は、ソフトウェアのローカライズ版でも、判明しているすべてのバグが修正されています。

Sun ONE Application Server 7, Update 5 をインストールおよびアップグレードするための詳細な手順は、次の URL にある『Sun ONE Application Server インストールガイド』に記載されています。

<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>

ソフトウェアのバージョンごとに別々のアップグレードパスが用意されています。

初期インストール

Sun ONE Application Server 7 がインストールされていない場合は、日本語版または簡体字中国語版の Sun ONE Application Server 7, Update 4 を最初にインストールし、英語版の Update 5 にアップグレードします。

Update 3 または Update 4 からのアップグレード

日本語版または簡体字中国語版を Update 3 または Update 4 からアップグレードするには、英語版 Update 5 へアップグレードします。アップグレードの手順は、『インストールガイド』に説明されています。

Update 2 以前からのアップグレード

Sun ONE Application Server 7, Update 2 以前がインストールされている場合は、まず、日本語版または簡体字中国語版 Sun ONE Application Server 7, Update 4 へアップグレードし、次に Update 5 の英語版へアップグレードします。

このリリースで修正されたバグ

ここでは、顧客から報告された問題のうち、Sun ONE Application Server 7, Update 5 で解決されているものを一覧します。

表 3 Sun ONE Application Server 7, Update 5 で修正されたバグ

バグ ID	説明
2091975	EJB クラスローダが Javax のインタフェースを実装している場合、Java クラスではなく、Javax タイプのリソースマネージャを取得する
2091976	getMetaData() が ResourceException をスローする場合に JCA が物理接続をリークする
2091977	リソースアダプタが接続のマッチングをサポートしない場合、Sun ONE Application Server は NotSupportedException の代わりに null (JCA 1.0 準拠) を返す
2091978	<authentication-mechanism> 属性がないと .rar ファイルを配置できない
5022976	コマンド行の名前と値のペアに空白文字が含まれていると、Ant を使用してレルムを作成するときにエラーが発生する
5039545	Servlet/JSP コンテナで絶対 URL の追加を無効にするために提供されたオプション。詳細については、 37 ページの「Web コンテナ」 の「既知の問題」にあるバグ 5039545 の説明を参照
5043376	HTTP 1.1 ヘッダーでは大文字小文字を区別しない
5049159	ディレクトリサーバーがダウンしている場合、Sun ONE Application Server がディレクトリサーバーに再接続しない
5056917	CNCTXFactory を使用して再接続を繰り返し実行するとハングアップまたはメモリー不足エラーになる
5063790	HTTP から HTTPS へ要求をリダイレクトしても、SSL の使用中は機能しない
5063854	不正な形式の Cookies を送信することにより、直前のセッションにアクセスできてしまう
6152742	JDBC 接続プールで接続が正しく解放されない
6155154	クライアントの認証が Microsoft Windows IIS 5.0 Web Server プラグインで機能しない
6155446	トランザクションログが壊れていると、トランザクション処理中にサーバーインスタンスがハングアップすることがある
6156869	Sun ONE Message Queue 3.0.1 から Sun ONE Message Queue 3.5 への移行についてのマニュアルがない

重要な情報

この節では次の項目について説明します。

- [マニュアル](#)
- [ユーザー補助機能](#)
- [アップグレードに関する注意事項](#)

マニュアル

Sun Microsystems 製品の全マニュアルは、次の URL から参照できます。

<http://docs.sun.com/>

この節では次の項目について説明します。

- [Sun ONE Application Server 7 のマニュアル](#)
- [関連マニュアル](#)

Sun ONE Application Server 7 のマニュアル

Sun ONE Application Server 7, Update 5 製品には、完全なマニュアルセットが付属しています。Sun ONE Application Server 7 のマニュアルのうち、Update 5 で更新されたマニュアルの Part No. は変更されています。次のリストの中では、これらのマニュアルタイトルの後ろには、(改訂) と記述しています。以前のアップデートリリースから変更されていないマニュアルには同じ Part No. が付いています。

注	重大な問題が生じた際は、マニュアルを改訂することもあります。改訂したマニュアルは、このサイトに登録されます。最終更新日は、HTML 版マニュアルの著作権情報と一緒に表示されます。
---	---

Sun ONE Application Server 7, Update 5 のマニュアルは、次の URL から参照できます。

<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>

Sun ONE Application Server の各マニュアルの Part No. と概要を次に示します。

- 『Product Overview』 - (Part No. 817-2166-10) Sun ONE Application Server 7 について説明します。製品の各エディションで利用できる機能についても説明します。
- 『Server Architecture』 - (Part No. 817-2167-10) 図表を使用しながら、サーバーアーキテクチャについて説明します。さらに、Sun ONE Application Server アーキテクチャの利点についても説明します。

- 『新機能』 - (Part No. 817-2165-10) 企業、開発者、および運用向けの、Sun ONE Application Server 7 の新機能について説明します。
- 『プラットフォームの概要』 (改訂) - (Part No. 819-0936) サポート対象のオペレーティングシステム、JDBC ドライバおよびデータベース、Web サーバー、ディレクトリサーバー、ブラウザ、関連するソフトウェアパッケージを一覧します。
- 『入門ガイド』 - (Part No. 817-2170-10) Sun ONE Application Server 7 製品の基本的な使用方法について説明します。初期開発を行う開発者向けの内容ですが、製品評価の担当者が参考にできる情報も含まれています。
- 『インストールガイド』 - (Part No. 819-1000) Sun ONE Application Server とそのコンポーネント (サンプルアプリケーション、管理インタフェース、Sun™ Open Net Environment (ONE) Message Queue) のインストールまたはアップグレードの方法について説明します。
- 『サーバーアプリケーションの移行および再配備』 - (Part No. 817-2181-10) 新しい Sun ONE Application Server 7 プログラミングモデルに従ってアプリケーションを移行する方法について説明します。特に、iPlanet™ Application Server 6.x、Netscape Application Server 4.0 からの移行について詳しく取り上げます。移行例も参照できます。
- 『開発者ガイド』 - (Part No. 817-2171-10) 開発者向けマニュアルの中でもっとも重要なマニュアルです。サーブレット、Enterprise JavaBeans™ (EJBs™)、JavaServer Pages (JSP)、各種 J2EE コンポーネントについて規定した Java のオープンスタンダードモデルに準拠し、Sun ONE Application Server 上で動作する J2EE アプリケーションの基本的な作成方法について説明します。これらの方法については、次の項目で説明します。J2EE アプリケーションの設計、セキュリティ、配備、デバッグ、ライフサイクルモジュールの作成方法などについて取り上げます。Sun ONE Application Server のさまざまな用語について説明している用語集も含まれています。
- 『Developer's Guide to Web Applications』 - (Part No. 817-2172-10) J2EE アプリケーションにおけるサーブレットや JavaServer Pages (JSP) の使用方法と、SHTML および CGI の使用方法について説明します。結果キャッシュ機能、JSP のプリコンパイル、セッション管理、セキュリティ、配備などについて取り上げます。
- 『Developer's Guide to Enterprise Java Beans Technology』 - (Part No. 817-2175-10) Sun ONE Application Server 環境におけるエンタープライズ Bean の開発および配備について説明します。コンテナ管理による持続性、読み取り専用 Bean、エンタープライズ Bean に関連付けられた XML ファイルや DTD ファイルなどについて取り上げます。
- 『Developer's Guide to J2EE Features and Services』 - (Part No. 817-2177-10) Java データベース接続 (JDBC)、Java ネーミングおよびディレクトリインタフェース (JNDI)、Java トランザクションサービス (JTS)、Java メッセージサービス (JMS)、JavaMail といった J2EE の機能について説明します。
- 『Developer's Guide to NSAPI』 - (Part No. 817-2177-10) NSAPI プラグインの作成方法について説明します。
- 『Developer's Guide to Web Services』 - (Part No. 817-2174-10) Sun ONE Application Server 環境における Web サービスの開発および配備について説明します。

- 『Developer's Guide to Clients』 - (Part No. 817-2173-10) Sun ONE Application Server 7 の J2EE アプリケーションにアクセス可能な Application Client Container (ACC) クライアントの開発および配備について説明します。
- 『管理者ガイド』 - (Part No. 817-3652-10) 管理者向けマニュアルの中でもっとも重要なマニュアルです。管理インタフェースまたはコマンド行インタフェースを使った Sun ONE Application Server サブシステムと各種コンポーネントの設定、管理、配備について説明します。Sun ONE Application Server のさまざまな用語について説明している用語集も含まれています。
- 『管理者用設定ファイルリファレンス』 - (Part No. 817-2178-10) server.xml ファイルをはじめとする Sun ONE Application Server の設定ファイルの内容について説明します。
- 『セキュリティ管理者ガイド』 - (Part No. 817-2179-10) Sun ONE Application Server 運用環境のセキュリティの設定および管理について説明します。セキュリティ、証明書、および SSL/TLS 暗号化の概要を説明します。また、HTTP サーバーベースのセキュリティについても説明します。
- 『J2EE CA SPI Administrator's Guide』 - (Part No. 817-2254-10) Sun ONE Application Server 環境の JCA SPI 実装機能の設定および管理について説明します。管理ツール、プーリングモニター、JCA コネクタの配備、サンプルコネクタとサンプルアプリケーションなどについて取り上げます。
- 『パフォーマンスチューニングガイド』 - (Part No. 817-2180-10) Sun ONE Application Server を使ってパフォーマンスを改善する方法と、なぜそうする必要のあるかについて説明します。
- 『Error Messages Reference』 - (Part No. 817-2182-10) Sun ONE Application Server の全エラーメッセージについて解説します。
- コマンド行インタフェースのマニュアルページ - コマンド行インタフェースで実行する全コマンドについて解説します (XML 形式、英語のみ)。
- ユーティリティのマニュアルページ - Sun ONE Application Server の全ユーティリティコマンドについて解説します (XML 形式、英語のみ)。
- 管理インタフェースのオンラインヘルプ - Sun ONE Application Server のグラフィカルな管理インタフェースのコンテンツ型オンラインヘルプです。

関連マニュアル

ほかの Sun ONE 製品のマニュアルが、Sun ONE Application Server のマニュアルで参照されている場合があります。

Sun ONE Message Queue マニュアル

Sun ONE Application Server に統合された Sun ONE Message Queue (Sun Java System Message Queue) サブシステムには、独自のマニュアルセットが存在します。次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com/db/prod/s1.s1msgqu?l=ja#hic>

Sun Java Studio 5, Standard Edition マニュアル

Sun ONE Application Server とともに使用できる Sun Java Studio 5, Standard Edition 製品には、独自のマニュアルセットが存在します。次の URL を参照してください。

Sun Java Studio 5, Standard Edition, Update 1 のマニュアル

<http://docs.sun.com/db/prod/java.studio?l=ja>

ユーザー補助機能

Sun ONE Application Server 製品のマニュアルは、補助機能を使って読むことができる形式で提供されます。

Sun ONE Application Server は、製品を見やすく、使いやすい形式にカスタマイズする補助機能を提供しています。次のような機能があります。

- ニーモニックおよびキーボードのショートカット
- カスタマイズ可能なフォント
- カスタマイズ可能な色
- カスタマイズ可能なツールバー
- カスタマイズ可能なスタイルシート

注	Solaris™ オペレーティングシステムでは、ウィンドウスタイルマネージャを使って画面の動作を設定します。ニーモニックを使用している場合は、画面の動作を「クリックでウィンドウをアクティブに」に設定します。これに設定していないと、ニーモニックがエラーになる場合があります。
---	--

Sun ONE Application Server の HTML オンラインヘルプを変更するには、ヘルプディレクトリに保存されているスタイルシートを編集します。

`server_root/lib/install/applications/admingui/adminGUI_war/help`

管理サーバーを再起動して、変更を有効にします。

アップグレードに関する注意事項

Sun ONE Application Server 7, Update 5 にアップグレードするための詳細な手順については、次の URL にある『Sun ONE Application Server インストールガイド』に記載されています。

<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>

既知の問題と制限事項

この節では、Sun ONE Application Server 7 の既知の問題とその回避方法について、次の項目別に解説します。

注	問題の説明にプラットフォームが明記されていない場合、その問題はすべてのプラットフォームに当てはまります。
---	--

この節は次の項目から構成されています。

- [インストール、アップグレードおよびアンインストール](#)
- [サーバーの起動とシャットダウン](#)
- [データベースドライバ](#)
- [Web コンテナ](#)
- [EJB コンテナ](#)
- [コンテナ管理による持続性](#)
- [Message Service とメッセージ駆動型 Beans](#)
- [Java トランザクションサービス \(JTS\)](#)
- [アプリケーションの配備](#)
- [ベリファイア](#)
- [設定](#)
- [配備記述子](#)
- [監視](#)
- [サーバーの管理](#)
- [Sun ONE Studio 4 プラグイン](#)
- [サンプルアプリケーション](#)
- [ORB/IIOP リスナー](#)
- [国際化 \(i18n\)](#)
- [マニュアル](#)

インストール、アップグレードおよびアンインストール

この節では、インストール、アップグレードおよびアンインストールに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4403166	<p>Microsoft Windows では、パッケージ、パス、またはアプリケーションの名前が 255 文字より長いと、アプリケーションの配備に失敗する</p> <p>Microsoft Windows では、JDK™ の制約により長いパッケージ名やパス名は使用できません。配備用ツールは、配備中にアーカイブからクラスファイルを抽出しようとします。展開したときの名前が 255 文字より長い場合、抽出は失敗します。</p> <ul style="list-style-type: none">長いアプリケーション名の例 <p>servlet_jsh_HttpServletRequestWrapper.ear などの J2EE アプリケーション名</p> <ul style="list-style-type: none">長いパッケージ名の例 <p>このサーブレットが次のようなパッケージに存在する場合</p> <pre>servlet_jsh_HttpServletRequestWrapper_1¥ servlet_jsh_HttpServletRequestWrapper_servlet_war¥WEB-INF¥classes¥tests¥ javax_servlet_http¥HttpServletRequestWrapperHttpServletRequestWrapperCon structorTestServlet.class</pre> <ul style="list-style-type: none">長いパス名の例 <p>Sun ONE Application Server が drive ¥:>Sun ¥ApplicationServer としてインストールされている</p> <p>解決法</p> <p>次のいずれかの解決法を選択します。</p> <ol style="list-style-type: none">インストール中に短いディレクトリ構造を作成します。たとえば、デフォルトの drive:¥>Sun¥Apssserver7 の代わりに drive:>App¥ を使用します。create_instance コマンドを使用して、インスタンスの名前を短いものに変更します。たとえば、/instance1/domain1/ を /i/d などに変更します。短いパッケージ名、パス名およびアプリケーション名にします。

ID	要約
4687768	<p>Solaris setup-SDK/JDK で、X ウィンドウを使用しないマシンにコマンド行モードでインストールしようとするエラーが発生する</p> <p>X ウィンドウライブラリがない Solaris システムでは、Sun ONE Application Server インストーラを実行できません。これは、コマンド行モードを使用する場合も同じです。SDK または Webstart の設定ウィザードのインストールフレームワークで使用される AWT オブジェクトを初期化しようとする、インストーラから <code>java.lang.UnsatisfiedLinkError</code> がスローされます。</p> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none">1. X ウィンドウのサポートパッケージをインストールしてください。このパッケージは、Sun ONE Application Server のインストールが完了したら削除します。2. <code>pkgadd</code> コマンドで Sun ONE Application Server パッケージをインストールします。次に、<code>asadmin</code> コマンドで初期ドメインを作成します。
4719600	<p>インストール時に警告メッセージが表示される</p> <p>インストール時に、次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。次に例を示します。</p> <pre>WARNING: Couldn't flush system prefs:java.util.prefs.BackingStoreException:Couldn't get file lock. WARNING: Could not lock System prefs.Unix error code -223460600.</pre> <p>解決法</p> <p>これらの警告は無視してください。あるいは、システム設定ディレクトリ (通常は <code>/etc/.java/.systemPrefs</code>) を作成します。システム設定ディレクトリは、通常、JDK インストールスクリプトによって自動的に作成されます。</p>
4737663	<p>Solaris 環境では、パッケージベースの製品と通常の製品を両方インストールすると競合が発生する</p> <p>パッケージベースの製品 (Solaris 9 バンドル版) とインストーラベースの通常の製品を両方インストールすると、競合が発生します。これらの製品は同一の Sun ONE Message Queue ブローカを共有します。このため、ドメイン名やインスタンス名が一意でないと、2 番目のドメインまたはインスタンスを起動するときに次のようなメッセージが表示されます。</p> <pre>SEVERE: JMS5024:JMS サービスのスタートアップに失敗しました SEVERE: CORE5071: 初期化中にエラーが発生しました</pre> <p>デフォルトのドメイン名とインスタンス名が両製品に共通であるという点には、特に注意が必要です。</p> <p>解決法</p> <p>『Sun ONE Application Server 管理者ガイド』の「JMS の管理」の章の説明に従ってください。</p>

ID	要約
4742038	<p>インストールディレクトリの名前に英数字以外の文字が含まれていると、Sun ONE Application Server が起動しない</p> <p>インストールディレクトリの名前に英数字以外の文字 (#、空白文字など) が含まれていると、Sun ONE Application Server が正常に起動しません。この場合、サーバーログファイルは作成されません。Sun ONE Application Server のインストールディレクトリの名前に使用できる文字は、英数字、ダッシュ (-)、下線 (_) のみです。インストール作業の一環として既存の Java 2 SDK ディレクトリを指定するときも、同じルールが適用されます。</p> <p>解決法</p> <p>インストール時には、英数字、ダッシュ、下線の文字のみ使用してディレクトリ名を指定してください。</p>
4742828	<p>サイレントインストーラがユーザーのアクセス権をチェックしない</p> <p>対話型インストーラ (GUI またはコマンド行) は、ユーザーのアクセス権が適切であるかどうかをチェックします。たとえば、Microsoft Windows へのインストールでは admin ユーザー、Solaris へのパッケージインストールでは root ユーザーのアクセス権が必要です。しかし、サイレントインストールでは、このチェックが行われません。パッケージをインストールするアクセス権 (Solaris)、またはサービスを作成するアクセス権 (Microsoft Windows) がないと、インストールは途中で失敗します。</p> <p>解決法</p> <p>サイレントインストールは、適切なアクセス権を持つユーザーが実行してください。</p>
4741190	<p>Solaris へのインストール時、JDK_LOCATION 値に以前のバージョン (Java 2 SDK 1.2 以前) のソフトウェアの格納場所を指定してもインストールが中止されない</p> <p>Sun ONE Application Server 7 には、バージョン 1.4.0_02 以上の Java 2 SDK が必要です。しかし、Solaris 上では、既存の Java 2 SDK (バージョン 1.2 以下) を使用するように指定しても警告メッセージが表示されません。この場合、インストール自体は正常に完了しますが、Sun ONE Application Server が正常に機能しません。これは、以前の JAVA_HOME の設定が残っているからです。</p> <p>解決法</p> <p>インストールプログラムの実行前に、JAVA_HOME の設定を解除します。</p> <p>(ksh の場合): <code>unset JAVA_HOME</code> (csh の場合): <code>unsetenv JAVA_HOME</code></p>

ID	要約
4742171	<p>既存の評価用環境に開発運用環境をサイレントモードでインストールした場合、エラーが報告されない</p> <p>インストーラをサイレントモードで実行するときに発生する問題です。既存の評価用 Sun ONE Application Server 7 (同じディレクトリ内) 上に、新しい Sun ONE Application Server 7 をサイレントモードでインストールする場合、途中でエラーが報告されることなく処理が進行します。既存の評価用インストールファイルは保存されます。</p> <p>解決法</p> <p>新しい開発運用環境をインストールする前に、既存の Sun ONE Application Server 7 環境をアンインストールしてください。</p>
4742552	<p>コマンド行モード (サイレントモード) でインストールを行うとき、1 回のインストールセッションで Sun ONE Application Server と Sun ONE Studio 4 Enterprise Edition for Java コンポーネントの両方を選択すると、問題が発生する</p> <p>開発運用環境用インストールに影響を及ぼす問題です。コマンド行モード (サイレントモード) のインストールでは、1 回のインストールセッションで、Application Server と Support for Sun ONE Studio 4, Enterprise Edition for Java の両方を選択できます (GUI モードではいずれか一方しか選択できない)。ところが、インストーラは、コンポーネントの依存関係を正しく処理できません。その結果、選択された Sun ONE Application Server コンポーネントではなく管理クライアントコンポーネントをインストールしようとします。</p> <p>解決法</p> <p>GUI モードの場合と同様に、最初にコマンド行モード (サイレントモード) で Sun ONE Application Server コンポーネントをインストールしておきます。その後、新たなセッションで Support for Sun ONE Studio をインストールします。</p>
なし	<p>Solaris 上で Sun ONE Application Server インストーラを使って既存の Sun ONE Message Queue 3.0 をバージョン 3.0.1 にアップグレードした場合、Sun ONE Application Server のアンインストール時に Sun ONE Message Queue も削除される</p> <p>Solaris の開発運用環境用インストーラに影響を及ぼす問題です。システム上の既存の Sun ONE Message Queue 3.0 を自動的にバージョン 3.0.1 にアップグレードできます。しかし、この Sun ONE Message Queue 3.0.1 は、Sun ONE Application Server のアンインストール時に削除されます。</p> <p>解決法</p> <p>Sun ONE Application Server のアンインストール後も Sun ONE Message Queue を保存しておきたい場合は、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自動アップグレードを行うかどうかを確認するメッセージが表示された時点でインストーラを終了します。 2. Sun ONE Message Queue のマニュアルの手順に従って Sun ONE Message Queue 3.0.1 へアップグレードします。 3. Sun ONE Application Server のインストールを再び実行します。

ID	要約
4746410	<p>Solaris 上のデフォルト以外の場所に Sun ONE Application Server をインストールするとき、パッケージベースのインストーラはディスク容量をチェックしない</p> <p>パッケージベースのインストーラを使って Solaris 上のデフォルト以外の場所に Sun ONE Application Server をインストールする場合、インストールプログラムは、指定したインストール先ディレクトリのディスク容量をチェックしないで、デフォルトで指定された場所 (/opt) のディスク容量をチェックします。</p> <p>解決法</p> <p>インストールを開始する前に /opt のディスク容量が 85M バイト以上あるかどうかを確認してください。これは、/opt をインストールディレクトリに指定しない場合も同様です。さらに、インストールディレクトリのディスク容量が 85M バイト以上あることを確認します。</p>
4748404	<p>Microsoft Windows XP では、サンプルアプリケーションコンポーネントと PointBase 4.2 コンポーネントを追加インストールできない</p> <p>Windows XP プラットフォームに影響を及ぼす問題です。既存の Sun ONE Application Server コンポーネント上に Sample Applications コンポーネントや PointBase 4.2 コンポーネントを追加インストールしようとしても、既存の Sun ONE Application Server が正常に検出されません。その結果、「Application Server Not Found」というエラーメッセージが表示されて、インストールが途中で終了します。</p> <p>解決法</p> <p>Sample Applications コンポーネントや PointBase 4.2 コンポーネントは、Sun ONE Application Server コンポーネントと同時にインストールしてください。Sun ONE Application Server がすでにシステム上に存在する場合は、いったんアンインストールして再インストールします。このとき、必要なコンポーネントをすべて選択します。</p>
4748455	<p>サイレントインストール時にディレクトリエラーが発生する</p> <p>全プラットフォームのサイレントインストールに影響を及ぼす問題です。指定のインストールディレクトリに問題がある場合、「Invalid Installation Directory」というエラーメッセージが表示されます。このエラーメッセージは次のように解釈できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• 選択されたディレクトリへの書き込みが許可されていない• 選択されたディレクトリの名前が空文字列、または空白文字を含む文字列 <p>解決法</p> <p>指定されたインストールディレクトリを調べ、エラーの原因を特定します。</p>

ID	要約
4749033	<p>Microsoft Windows XP では、スタンドアロンの管理クライアントをアンインストールプログラムでアンインストールできない</p> <p>Windows XP プラットフォーム上のスタンドアロンの管理クライアントに影響を及ぼす問題です。付属のアンインストールプログラムを使ってスタンドアロンの管理クライアントをアンインストールしようとする、不適切なコンポーネントセットが選択され、システムがハングアップします。</p> <p>解決法</p> <p>スタンドアロンの管理クライアントを手動でアンインストールします。ファイルが格納されている <i>install_dir</i> ディレクトリを削除します。関連するプログラムグループのフォルダ (「スタート」->「プログラム」->「Sun Microsystems」->「Sun ONE Application Server」) も削除します。スタンドアロンの管理クライアントコンポーネントに対応する Microsoft Windows レジストリエントリは存在しません。この手順により、システムは、管理クライアントがインストールされる前の状態に戻ります。</p>
4749666	<p>Sample Application コンポーネントを追加インストールした場合、サンプルドキュメントが初期サーバーインスタンスに公開されない</p> <p>すべてのプラットフォームの開発運用環境用インストーラに影響を及ぼす問題です。Sun ONE Application Server のインストール後、新たなインストールセッションでサンプルアプリケーションをインストールした場合、サンプルドキュメントが初期サーバーインスタンスに公開されません。また、http://hostname:port/samples からアクセスすることもできません。しかし、サンプルドキュメントはファイルシステム上にインストールされているので、次の URL からのローカルアクセスは可能です。 <code>file:///install_root/samples/index.html</code></p> <p>解決法</p> <p>サンプルドキュメントにはローカルからアクセスしてください。</p>

ID	要約
4754256	<p data-bbox="241 243 1213 300">Solaris 上でインストーラを使って Sun ONE Message Queue をアップグレードする場合、設定ファイルが保存されない</p> <p data-bbox="241 321 1220 435">インストーラは、システム上で以前の Sun ONE Message Queue 3.0 パッケージを検出すると、自動的に Sun ONE Application Server 用の Sun ONE Message Queue 3.0.1 にアップグレードします。このとき、バージョン 3.0 の Solaris パッケージとともに次の設定ファイルが削除されます。</p> <pre data-bbox="241 456 711 508">/etc/imq/passwd /etc/imq/accesscontrol.properties</pre> <p data-bbox="241 529 1173 586">これらのファイルに変更を加えていた場合、変更内容は失われます。Sun ONE Message Queue 3.0.1 はデフォルトの設定になります。</p> <p data-bbox="241 607 315 630">解決法</p> <p data-bbox="241 651 1216 736">変更が加えられているファイルのバックアップコピーを作成しておき、アップグレードの完了後に復元します。詳細については、『Sun ONE Message Queue 3.0 インストールガイド』を参照してください。</p>

ID	要約
4754824	<p data-bbox="315 232 1333 262">Solaris 上で、CD からインストールを実行しているときエラーメッセージが表示される</p> <p data-bbox="315 284 1333 482">CD-ROM ドライブにボリュームを挿入すると、Solaris ボリューム管理によりシンボリック名が割り当てられます。たとえば、デフォルトの正規表現が一致している CD-ROM が 2 枚ある場合、それぞれに <code>cdrom0</code> または <code>cdrom</code> という名前が割り当てられます。正規表現が一致している CD-ROM をさらに追加すると、<code>cdrom2</code> で始まる名前が割り当てられます。このことは、<code>vold.conf</code> のマニュアルページで説明しています。CD から Sun ONE Application Server をインストールするたびに、ラベル名と数値から成るマウントポイント名が割り当てられます。最初に CD をマウントしたときは、正常に動作します。2 回目以降のマウントでは、インストーラの起動時に次のエラーメッセージが表示されます。</p> <pre data-bbox="315 493 1333 579">IOException:java.io.FileNotFoundException: /cdrom/appserver7 No such file or directory) while loading default flavormap.properties file URL:file:/cdrom/appserver7#4/AppServer7/pkg/jre/lib/flavormap.properties</pre> <p data-bbox="315 597 1333 626">解決法</p> <p data-bbox="315 644 1333 673">インストーラの機能には影響を及ぼしませんが、次の解決方法があります。</p> <ol data-bbox="315 690 1333 805" style="list-style-type: none"> 1. コマンドプロンプトに <code>su</code> と入力し、パスワードを入力してスーパーユーザーになります。または、最初から <code>root</code> (スーパーユーザー) としてログインします。スーパーユーザーのコマンドプロンプト (<code>#</code>) が表示されます。 2. <code>cdrom</code> ディレクトリが存在しない場合は、次のコマンドで作成します。 <pre data-bbox="344 822 558 852"># mkdir /cdrom</pre> <ol data-bbox="315 869 1333 899" style="list-style-type: none"> 3. CD-ROM ドライブをマウントします。 <p data-bbox="315 909 1333 968">注: <code>vold</code> プロセスは、CD-ROM デバイスを管理し、マウントを実行します。 /<code>cdrom/cdrom0</code> に、CD-ROM が自動的にマウントされます。</p> <p data-bbox="315 979 1333 1038">ファイルマネージャを実行している場合は、ファイルマネージャウィンドウが開き、CD-ROM の内容が表示されます。</p> <ol data-bbox="315 1048 1333 1135" style="list-style-type: none"> 4. CD-ROM がマウントされていないため <code>/cdrom/cdrom0</code> ディレクトリが空になっている場合や、CD-ROM のコンテンツを表示するファイルマネージャウィンドウが開かない場合は、次のコマンドで、<code>vold</code> デーモンが実行されているかどうかを確認します。 <pre data-bbox="344 1152 829 1182"># ps -e grep vold grep -v grep</pre> <ol data-bbox="315 1199 1333 1258" style="list-style-type: none"> 5. <code>vold</code> が実行されている場合は、<code>vold</code> のプロセス ID が表示されます。何も表示されない場合は、次のコマンドでデーモンを強制終了します。 <pre data-bbox="344 1258 858 1288"># ps -ef grep vold grep -v grep</pre> <ol data-bbox="315 1298 1333 1328" style="list-style-type: none"> 6. 次のコマンドで <code>vold</code> プロセスを停止します。 <pre data-bbox="344 1328 758 1357"># kill -15 process_ID_number</pre> <ol data-bbox="315 1367 1333 1397" style="list-style-type: none"> 7. CD-ROM を手動でマウントします。 <pre data-bbox="344 1397 1100 1426"># mount -F hsfs -r ro /dev/dsk/cxytyd0sz /cdrom/cdrom0</pre> <p data-bbox="315 1437 1333 1489"><code>x</code> は CD-ROM ドライブのドライブコントローラ文字です。<code>y</code> は CD-ROM ドライブの SCSI ID です。<code>z</code> は CD-ROM が置かれているパーティション (スライス) です。</p> <p data-bbox="315 1499 1333 1551">これで、CD-ROM ドライブがマウントされました。インストール時の手順については、Solaris のマニュアルで CD のインストールと設定に関する説明を参照してください。</p>

ID	要約
4755165	<p>Microsoft Windows で、管理者の認証情報を setup.exe の実行時に提供した場合、インストーラ機能に問題が発生する</p> <p>Microsoft Windows プラットフォームのインストールに影響を及ぼす問題です。管理者の特権なしでログインしたユーザーが setup.exe を実行しようとする、管理者の認証情報の入力を求めるプロンプトが表示されます。正しい認証情報を入力すると、特権のチェックが正常に完了し、インストールが開始されます。ただし、次のような問題が発生することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">・ インストールディレクトリを選択する画面で「ブラウズ」ボタンを使用すると、インストーラがハングアップします。・ Sun ONE Application Server のプログラムグループエントリが作成されません。 <p>解決法</p> <p>インストールの実行時には管理者の特権を持つユーザーとしてログインしてください。</p>
4757687	<p>Solaris 上で、管理クライアントコンポーネントがインストール済みのシステムに Sun ONE Application Server コンポーネントの追加インストールをすると、Sun ONE Application Server が使用できなくなる</p> <p>Solaris プラットフォーム上の Solaris のパッケージベースのインストールに影響を及ぼす問題です。スタンドアロンの管理クライアントコンポーネントがインストールされているシステムに、管理クライアントコンポーネントのインストールディレクトリ以外のディレクトリを指定して Sun ONE Application Server をインストールした場合、インストールに成功したというメッセージが表示されていても、この Sun ONE Application Server を使用することはできません。これは、システム上に管理クライアントの Solaris パッケージがインストールされているからです。これらのパッケージを Sun ONE Application Server と同時にインストールすることはできません。その結果、製品機能を使用するために必要なファイルが見つからないという問題が発生します。</p> <p>解決法</p> <p>Solaris システム上のスタンドアロンの管理クライアントをアンインストールしてから、Sun ONE Application Server をインストールします。</p> <p>Sun ONE Application Server の追加インストールも可能ですが、管理クライアントと同じインストールディレクトリを使用する必要があります。</p>

ID	要約
4762118	<p>Solaris 上で、選択されたカスタム設定ディレクトリが選択されたインストールディレクトリのサブディレクトリ etc である場合、インストールが失敗する</p> <p>Solaris プラットフォーム上の Solaris のパッケージベースのインストールに影響を及ぼす問題です。次の組み合わせでカスタムディレクトリを選択すると、ディレクトリのグループの所有権情報に不整合が生じ、インストールが失敗します。</p> <ul style="list-style-type: none">インストールディレクトリ : <i>install_dir</i>設定ディレクトリ : <i>install_dir/etc</i> <p><i>/var/sadm/install/logs</i> ディレクトリ内の <i>pkgadd</i> ログファイルに次のエラーメッセージが書き込まれます。</p> <pre>pkgadd: ERROR: duplicate pathname /install_dir/etc pkgadd: ERROR: unable to process pkgmap</pre> <p>解決法</p> <p><i>install_dir/etc</i> 以外のカスタム設定ディレクトリを選択してください。</p>
4724612	<p>Solaris SPARC および Linux 上で、インストールを行ったユーザー以外が PointBase シェルスクリプトを実行すると失敗する</p> <p>評価版インストールだけに影響を及ぼす問題です。PointBase シェルスクリプトの実行権はインストールを行なったユーザーにだけ付与されます。</p> <p>解決法</p> <p>製品のインストールを行なったユーザー以外がこのスクリプトを実行する必要がある場合は、実行権を 0755 に変更してください。</p>
4762694	<p>Solaris 上で、Sun ONE Message Queue のアップグレード時に Sun ONE Message Queue パッケージ SUNWiqsup が削除されない</p> <p>Solaris だけで発生する問題です。Sun ONE Application Server 7 のインストール時には、Sun ONE Message Queue 3.0.1 がインストールされます。Solaris 上で Sun ONE Message Queue 3.0 が検出された場合、このバージョンはユーザーの承認後にアンインストールされます。その後、バージョン 3.0.1 がインストールされます。</p> <p>アップグレード時、Solaris インストーラが Sun ONE Message Queue 3.0 の Solaris パッケージの一部 (SUNWiqsup) を削除しないというクリーンアップ関連の問題があります。このパッケージは、Sun ONE Message Queue にも Sun ONE Application Server 7 にも悪影響を及ぼしません。したがって、残したままでも問題はありません。</p> <p>解決法</p> <p>root (スーパーユーザー) になり、次のコマンドを使って SUNWiqsup パッケージを手動で削除します。</p> <pre># pkgrm SUNWiqsup</pre>

ID	要約
4890289	<p>Window 2000 Pro 上で、アンインストールプログラムがアンインストールの実行に必要な JDK を見つけることができない</p> <p>Window 2000 Pro 上でアンインストールを実行すると、次のメッセージが表示されて失敗します。</p> <p>The uninstaller could not locate a suitable j2sdk to run the uninstalation program. Run the uninstalation again with the -javahome option set to the directory in which j2sdk 1.4.0_02 or greater is installed. Press Enter to exit.</p> <p>解決法</p> <p>JDK の場所として -javahome を使用します。</p>
5017630	<p>Window でアップグレードを行うときに SNMP を実行していると、エラーが表示されてアップグレードが失敗する</p> <p>解決法</p> <p>アップグレードを実行する前に SNMP サービスを停止します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. コントロールパネルから「管理ツール」を選択します。2. 「サービス」を選択します。3. SNMP サービスまでスクロールダウンし、それを停止します。
5018162	<p>Linux 上で、指定した Message Queue がすでにインストール済みの場合、完全インストールを行うと、2 つの Message Queue がインストールされる</p> <p>解決法</p> <p>Linux の 4.2.1.xx の rpm ユーティリティバグにより、インストールされた Sun ONE Message Queue (imq) rpm が認識されません。このため、Sun ONE Application Server のインストーラは、Sun ONE Message Queue rpm の 2 番目のバージョンをインストールします。この問題を回避するには、rpm のバージョン 4.2.0.69 をシステムにインストールするか、Message Queue をアンインストールしてから Application Server をインストールします。</p> <p>rpm パッケージが Linux の前のバージョンでアップグレードされていない場合は、通常 rpm のバージョン 4.2.1.xx が Red Hat Enterprise Linux Advanced Server 3.0 に収録されています。</p>
5034338	<p>Linux 上で、アップグレードされたパッケージがアンインストールプログラムで削除されない</p> <p>解決法</p> <p>パッケージを手動で削除します。次を入力します。</p> <pre>rpm -e --nodeps SUNWas* packages</pre>

ID	要約
5050621	<p>Linux 上で、Sun Java Enterprise 2004Q2 の一部として Sun ONE Application Server 7 Update 3 をインストールし、その後 Sun ONE Application Server をアップグレードすると、問題が発生する。以後、新しいサーバーインスタンスを作成し、Directory Server を有効にした SSL で Sun Java System Identity Server 2004Q2 をインストールしようとする試行は失敗となり、新しく作成されたサーバーインスタンスは、再起動時に SIGSEGV エラーとなってクラッシュする</p> <p>解決法</p> <p>Sun ONE Application Server へのアップグレード後に作成された Application Server のインスタンスについては、サーバーインスタンスの server.xml ファイルを編集し、server-classpath の jss3.jar の正しい場所を次のように指定します。</p> <p>次の行を変更します。</p> <pre><java-config java-home="/usr/jdk/entsys-j2se" server-classpath="/usr/share/lib/mps/secv1/jss3.jar <---</pre> <p>これを、次のように変更します。</p> <pre><java-config java-home="/usr/jdk/entsys-j2se" server-classpath="//opt/sun/private/share/lib/jss3.jar <----</pre> <p>将来この問題が起こらないようにするには、次のテンプレートファイルも変更します。</p> <pre>\${APPSERVER_INSTALL_DIR}/lib/install/template/server.xml.template.adm in \${APPSERVER_INSTALL_DIR}/lib/install/template/server.xml.template</pre> <p>これらのテンプレートファイルで、次の行を変更します。</p> <pre><java-config java-home="%%%JAVA_HOME%%%" server-classpath="/usr/share/lib/mps/secv1/jss3.jar</pre> <p>これを、次のように変更します。</p> <pre><java-config java-home="%%%JAVA_HOME%%%" server-classpath="/opt/sun/private/share/lib/jss3.jar</pre>
なし	<p>Red Hat Enterprise Linux AS 3.0 上で、Sun ONE Application Server をインストールする前に、compat-libstdc++ (下位互換性を維持するための標準の C++ ライブラリ) をインストールする必要がある</p> <p>解決法</p> <p>Sun ONE Application Server をインストールする前に compat-libstdc++ をインストールします。これらのライブラリは、Red Hat Enterprise Linux AS 3.0 の CD セットに収録されています。</p>

ID	要約
なし	<p>Windows に Sun ONE Application Server をインストールすると、次のメッセージが表示される</p> <p>"Error writing native components to disk. Aborting wizard"</p> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none">1. C:¥Documents という名前のファイルがある場合は、それがシステムプロパティ user.home (通常は C:¥Documents and Settings¥your_name を指す) の処理を妨げます。C:¥Documents を削除するか、名前を変更します。2. さらに、環境変数 TEMP を、既存の書き込み可能なディレクトリを指すように設定する必要があります。
5063872	<p>アップグレードのインストーラを使用して Sun ONE Application Server 7 をアップグレードするときに、app_server_install/samples/common.properties ファイルが null 値で上書きされる</p> <p>解決法</p> <p>最新の Sun ONE Application Server 7 へアップグレードする前に common.properties ファイルのバックアップをとるか、アップグレード後に common.properties に手動で値を加えます。</p> <p>Microsoft Windows プラットフォーム用の common.properties サンプルファイル</p> <pre>com.sun.aas.javaRoot=C¥:/Sun/AppServer7/jdk admin.host=<machinename> admin.port=4848 com.sun.aas.imqLib=C¥:/Sun/AppServer7/imq/lib com.sun.aas.installRoot=C¥:/Sun/AppServer7 admin.user=admin #admin password will not be saved as default. User can enter it and save it manually. #admin.password= sunone.instance=server1 com.sun.aas.webServicesLib=C¥:/Sun/AppServer7/share/lib com.sun.aas.pointbaseRoot=C¥:/Sun/AppServer7/pointbase sunone.instance.port=<port> sunone.instance=server1 admin.user=admin admin.port=4848</pre>

ID	要約
5063872 (続き)	<p data-bbox="318 244 1046 270">Linux プラットフォーム用の common.properties サンプルファイル</p> <pre data-bbox="318 288 1276 666">com.sun.aas.pointbaseRoot=/export/appserver7ur5/pointbase com.sun.aas.webServicesLib=/export/appserver7ur5/share/lib com.sun.aas.imqLib=/opt/imq/lib com.sun.aas.installRoot=/export/appserver7ur5 com.sun.aas.javaRoot=/usr/java/j2sdk1.4.2_04 #admin password will not be saved as default. User can enter it and save it manually. #admin.password= admin.host=<machinename> sunone.instance=server1 sunone.instance.port=80 admin.user=admin admin.port=4848</pre> <p data-bbox="318 689 1053 715">Solaris プラットフォーム用の common.properties サンプルファイル</p> <pre data-bbox="318 732 1276 1109">com.sun.aas.pointbaseRoot=/opt/SUNWappserver7/pointbase com.sun.aas.webServicesLib=/usr/share/lib com.sun.aas.imqLib=/usr/share/lib/imq com.sun.aas.installRoot=/opt/SUNWappserver7 com.sun.aas.javaRoot=/usr/j2se #admin password will not be saved as default. User can enter it and save it manually. #admin.password= admin.host=<machinename> sunone.instance=server1 sunone.instance.port=81 admin.user=admin admin.port=4848</pre>

ID	要約
6172916	<p>Sun ONE Application Server をアップグレードするためにアップグレードインストーラを使用した後に Sun ONE Application Server の再起動に失敗する</p> <p>Solaris プラットフォームでは、次のエラーメッセージが表示されます。</p> <pre>SEVERE (14394): JMS5024: JMS service startup failed. CORE5071: An error occured during initialization</pre> <p>Linux プラットフォームでは、次のエラーメッセージが表示されます。</p> <pre>cp: cannot stat `/etc/opt/imq/passwd': No such file or directory cp: cannot stat `/etc/opt/imq/accesscontrol.properties': No such file or directory Error backing up!</pre> <p>この問題は、アップグレードインストーラがインストールされている Message Queue のバージョンをチェックしないために発生します。インストーラは、Sun ONE Application Server 7 と同梱の Sun ONE Message Queue 3.0.1 SP3 を自動的にインストールします。</p> <p>Sun Java System Message Queue 3.5 がインストールされている場合、アップグレードインストーラは、それを Message Queue 3.0.1SP3 へダウングレードします。</p> <p>Microsoft Windows プラットフォームでは、Sun ONE Application Server インストーラがインストールするのと同じディレクトリに Sun Java System Message Queue 3.5 がインストールされている場合、問題が発生します。エラーは表示されません。</p> <p>解決法</p> <p>まだアップグレードインストーラを実行していない場合：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 製品をダウンロードしてバイナリを解凍した後、 <code>untarred_location/sun-appserver7/upgrade</code> ディレクトリへ移動します。2. <code>package-list</code> ファイルを開き、Message Queue に関連するすべてのパッケージ名を削除します。 <ul style="list-style-type: none">• Microsoft Windows プラットフォームの場合：<code>imq.zip</code>• Solaris Sparc および x86 プラットフォームの場合：<code>SUNWiqdoc</code>、<code>SUNWiqfs</code>、<code>SUNWiqjx</code>、<code>SUNWiqr</code>、<code>SUNWiqu</code>、<code>SUNWiquc</code>、<code>SUNWiqum</code>• Linux プラットフォームの場合：<code>imq</code>

ID	要約
6172916 (続き)	<p>すでにアップグレードインストーラを使用してアップグレードした場合：</p> <p>Solaris Sparc および x86 プラットフォーム上でのパッケージベースのインストールの場合：</p> <ol style="list-style-type: none">1. コマンドプロンプトに、<code>rm -rf /var/imq/instances</code> と入力して Message Queue インスタンスを削除します。2. <code>pkgrm</code> を使用して、次のパッケージを削除します。 <code>application SUNWiqdoc Sun ONE Message Queue Javadoc and Examples</code> <code>application SUNWiqfs Sun ONE Message Queue JNDI FS Provider</code> <code>application SUNWiqjx Sun ONE Message Queue JAXM Client Runtime Package</code> <code>application SUNWiqr Sun ONE Message Queue Root Package</code> <code>application SUNWiqu Sun ONE Message Queue /usr Package</code> <code>application SUNWiquc Sun ONE Message Queue Client Runtime Package</code> <code>application SUNWiqum Sun ONE Message Queue JMS/SOAP Msg Transformer Runtime</code>3. <code>pkgadd</code> を使用して、前の手順で削除したパッケージの正しいバージョンをインストールします。 <p>Linux RPM インストールの場合：</p> <ol style="list-style-type: none">1. <code>rm -rf /var/imq/instances</code> を入力して、Message Queue インスタンスを削除します。2. <code>rpm -e imq</code> を入力して、Message Queue のインストールを削除します。3. <code>rpm -i rpm_location/imq-xxx.rpm</code> を入力して、正しいバージョンの Message Queue をインストールします。xxx は、正しいバージョンの Message Queue です。 <p>Microsoft Windows プラットフォーム、およびすべてのプラットフォームの zip、tar、および評価版インストールの場合：</p> <ol style="list-style-type: none">1. <code>rmdir app_server_install_dir/imq</code> を入力して、Message Queue のインストールを削除します。2. ダウンロードされた場所から正しいバージョンの Message Queue を解凍し、インストーラを実行します。

サーバーの起動とシャットダウン

この節では、起動とシャットダウンに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ログサービスの create-console 属性の動作

Microsoft Windows では、server.xml 内の log-service 要素の create-console 属性の値を true に設定すると (デフォルト設定)、デスクトップ上にウィンドウが開き、サーバーイベントログの内容が表示されます。意図的にこのウィンドウを閉じて、アプリケーションサーバーインスタンスプロセスが終了したままになることはありません。コンソールウィンドウを閉じると、appservd.exe プロセスが終了します。しかし、このサーバーインスタンスプロセスは、監視プロセス (appservd-wdog.exe) によってただちに再起動されます。

開発者は、アプリケーションサーバーインスタンスを迅速に再起動する手段として、インスタンスのイベントログウィンドウを閉じることができます。

ただし、アプリケーションサーバーインスタンスを完全に (監視プロセスとともに) 停止する場合は、次の手順を実行してください。

- 管理インタフェースを使用する場合 - 「スタート」-> 「プログラム」-> 「Sun ONE Application Server 7」-> 「Stop Application Server」を選択します。
- コマンド行インタフェースを使用する場合 - asadmin stop-instance --local=true instance name を実行します。

これは、ローカル形式の stop-instance コマンドです。リモート形式も使用できます。詳細については、asadmin stop-instance のヘルプを参照してください。
- 管理コンソールを使用する場合 - サーバーインスタンスを選択し、「停止」をクリックします。

管理コンソールでは、アプリケーションサーバーインスタンスの「ログ」タブの「コンソールを作成」の設定を変更することにより、コンソールイベントログウィンドウの有効または無効を切り替えることができます。

ID	要約
4725893	<p>Solaris 上で、ライセンスの有効期限が表示されない</p> <p>Solaris SPARC の評価用ライセンスに影響を及ぼします。ライセンスの有効期限まで 2 週間以内になっても、コマンド行インタフェースやブラウザベースのインタフェースに警告メッセージが表示されません。この警告メッセージは、サーバーログファイルに書き込まれます。</p> <p>解決法</p> <p>サーバーログファイルを確認してください。</p>

ID	要約
4738648	<div data-bbox="319 239 986 270">JMS service/Sun ONE Application Server の起動が失敗する</div> <div data-bbox="319 288 1300 374"><p>JMS プロバイダ (Sun ONE Message Queue ブローカ) が未配信の持続メッセージを大量に保持している場合、次の問題の発生により、Sun ONE Application Server の初期化時に障害が発生します。</p></div> <div data-bbox="319 392 1286 449"><ol style="list-style-type: none">1. 未配信のメッセージを全部読み込もうとしてメモリー不足になり、MQ ブローカの処理が中断されます。</div> <div data-bbox="319 466 394 494">解決法</div> <div data-bbox="319 512 1308 572"><p>MQ ブローカプロセスの Java ヒープサイズを大きくしてください。このためには、JMS サービスの <code>Start Arguments</code> 属性の値を <code>-vmargs -Xmx256m</code> に設定します。</p></div> <div data-bbox="319 588 1308 645"><p>この属性の設定手順については、『Sun ONE Application Server 管理者ガイド』の「JMS サービスの使用」の章を参照してください。</p></div> <div data-bbox="319 663 1219 722"><ol style="list-style-type: none">2. MQ ブローカが特定の時間内に初期化シーケンスを完了できない場合、Sun ONE Application Server がタイムアウトになり、中断します。</div> <div data-bbox="319 739 394 767">解決法</div> <div data-bbox="319 784 1308 871"><p>JMS サービスの <code>Start Timeout</code> 属性の値を大きくします。この属性の設定手順については、『Sun ONE Application Server 管理者ガイド』の「JMS サービスの使用」の章を参照してください。</p></div>

ID	要約
4762420	<p data-bbox="239 239 1139 263">ファイアウォールの規則により、Sun ONE Application Server の起動に失敗する</p> <p data-bbox="239 288 1215 475">パーソナルファイアウォールをインストールしている場合に発生する問題です。Sun ONE Application Server がインストールされているマシンに厳密なファイアウォール規則を適用すると、管理サーバーおよび Application Server インスタンスの起動時に障害が発生することがあります。管理サーバーおよび Application Server インスタンスは、Sun ONE Application Server 環境でローカル接続を確立しようとしています。これらの接続はローカルのホストではなくシステムのホスト名を使ってポートにアクセスしようとするので、ローカルのファイアウォールの規則に従ってブロックされることがあります。</p> <p data-bbox="239 493 1222 680">セキュリティ上何の問題もない処理に対して、ローカルのファイアウォールが誤った警告を生成することもあります。たとえば、Sun ONE Application Server がポート 3700 で TCP 接続を試行しているのに、「Portal of Doom Trojan」攻撃または同様の攻撃を受けたというメッセージが表示される場合があります。このような問題は、Sun ONE Application Server がローカル通信に使用するポート番号と、既知の一般的な攻撃に使用されるポート番号が重複している場合に発生します。ポート番号が重複しているかどうかの判断基準は次のとおりです。</p> <ul data-bbox="239 697 1208 781" style="list-style-type: none"> • Microsoft Windows プログラムグループの「Start Application Server」を使って Sun ONE Application Server を起動しようすると、次のメッセージとともに処理が失敗します。 <pre data-bbox="282 798 1053 881"> Could not start the instance: domain1:admin-server server failed to start:abnormal subprocess termination ... </pre> <ul data-bbox="239 902 1208 958" style="list-style-type: none"> • 管理ログファイルとサーバーインスタンスログファイルに、接続例外と次のメッセージが書き込まれています。CORE3186:Failed to set configuration <p data-bbox="239 975 315 999">解決法</p> <p data-bbox="239 1020 1215 1076">Sun ONE Application Server からローカルシステム上のポートに接続できるように、ファイアウォールポリシーを変更します。</p> <p data-bbox="239 1097 1179 1152">攻撃について誤った警告が生成されないようにするには、攻撃関連の規則を変更するか、Sun ONE Application Server が使用するポート番号を変更します。</p> <p data-bbox="239 1170 1193 1225">管理サーバーおよび Application Server インスタンスが使用するポート番号は、Sun ONE Application Server のインストール先の <code>server.xml</code> ファイルで確認できます。</p> <pre data-bbox="272 1236 1012 1291"> domain_config_dir/domain1/admin-server/config/server.xml domain_config_dir/domain1/server1/config/server.xml </pre> <p data-bbox="239 1308 1103 1333"><code>domain_config_dir</code> はサーバーの初期設定を行なった場所です。次に例を示します。</p> <p data-bbox="239 1354 812 1378">Microsoft Windows の場合 : <code>install_dir/domains/...</code></p> <p data-bbox="239 1381 1048 1406">Solaris 9 以上の統合インストールの場合 : <code>/var/appserver/domains/...</code></p> <p data-bbox="239 1409 798 1433">Solaris 8、9 以上のアンバンドルインストールの場合</p> <p data-bbox="239 1437 743 1461"><code>/var/opt/SUNWappserver7/domains/...</code></p> <p data-bbox="239 1482 1215 1572"><iioop-listener> と <jms-service> のポート設定を確認します。これらのポート番号を未使用のポート番号に変更するか、ローカルマシン上のクライアントから同じマシン上のこれらのポートへ接続できるようにファイアウォールポリシーを書き換えます。</p>

ID	要約
4780076	<p>Solaris 上で、Sun ONE Application Server がすべてのインスタンスを root (スーパーユーザー) として起動するため、root 以外のユーザーに root アクセス権が与えられる</p> <p>Sun ONE Application Server を Solaris (バンドル版) の一部としてインストールすると、Application Server の起動に関連する問題が発生します。</p> <ul style="list-style-type: none">• すべての Application Server および管理サーバーは、Solaris の起動時に、自動的に起動します。環境によっては、Solaris の起動時に、インスタンスが起動しない場合もあります。定義されたすべてのインスタンスを起動すると、システム上の利用可能なメモリーに悪影響を与えることがあります。• Application Server インスタンスおよび管理サーバーインスタンスが自動的に起動する際、各インスタンスの起動スクリプトは root (スーパーユーザー) として実行されます。インスタンスレベルの起動スクリプトを変更すると、root 以外が所有するインスタンス起動スクリプトを実行して、root 以外のユーザーが root ユーザーにアクセスできるようになります。 <h3>バックグラウンド</h3> <p>Sun ONE Application Server を Solaris の一部としてインストールすると、/etc/init.d/appserv スクリプトと、/etc/rc*.d/ ディレクトリの S84appserv および K05appserv スクリプトへのシンボリックリンクがインストールされます。インストールされたスクリプトは、すべての Application Server と管理サーバーのインスタンスを Application Server の一部として定義します。そのため、Solaris システムの起動およびシャットダウン時に、インスタンスは自動的に起動、停止されます。</p> <p>/etc/init.d/appserv スクリプトには、次のコードセクションがあります。</p> <pre>... case "\$1" in 'start') /usr/sbin/asadmin start-appserv ;; 'stop') /usr/sbin/asadmin stop-appserv ;; ... asadmin start-appserv コマンドを実行すると、管理サーバーインスタンスおよび管理ドメインに定義されているすべての Application Server インスタンスが Solaris 起動時に起動します。システムの起動およびシャットダウンスクリプトは root で実行されるので、各 Application Server と管理サーバーのインスタンスも root で実行されます。インスタンスレベルの起動スクリプトは、startserv という名前で instance-dir/bin/startserv に格納されます。インスタンスは、root 以外のユーザーが所有していることがあるため、root 以外のユーザーが startserv スクリプトを変更して、root ユーザーでコマンドを実行する可能性があります。<p>インスタンスが特権を持つネットワークポートを使用している場合は、そのインスタンスの startserv スクリプトは root として実行する必要があります。通常、インスタンスを「実行するユーザー」と設定して、一度インスタンスを root ユーザーで起動した後は、特定のユーザーで実行されるようにします。</p></pre>

ID	要約
4780076 (続き)	<p>解決法</p> <p>次に解決方法を示します。環境に対応した方法を実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none">• すべての Application Server と管理サーバーのインスタンスが root で起動されない環境では、<code>etc/init.d/appserv</code> スクリプトの <code>asadmin start-appserv</code> および <code>asadmin stop-appserv</code> コマンドをコメントアウトして実行されないようにします。• 特定の管理ドメイン (管理サーバーインスタンス、および各ドメインのすべての Application Server インスタンスを含む)、あるいは1つ以上の管理ドメイン内で特定のインスタンスを起動する環境では、<code>/etc/init.d/appserv</code> スクリプトを変更してドメインやインスタンスを起動するようにするか、あるいは環境に対応した <code>/etc/rc*.d/</code> スクリプトを新たに定義します。• 特定のドメインを起動します。管理ドメインあるいは特定のインスタンスが root 以外のユーザーとして起動する必要がある場合は、<code>-c</code> オプション付きの <code>su</code> コマンドを使って目的のドメインやインスタンスを起動します。 <p>例</p> <p>特定の管理ドメインの起動 - 次のように <code>/etc/rc*.d/</code> スクリプトを変更すると、管理サーバーインスタンス、および特定の管理ドメインに含まれるすべての Application Server インスタンスが、root で実行されます。</p> <pre>... case "\$1" in 'start') /usr/sbin/asadmin start-domain --domain production-domain ;; 'stop') /usr/sbin/asadmin stop-domain --domain production-domain ;; ... </pre>

ID	要約
4780076 (続き)	<ul style="list-style-type: none">特定のアプリケーションサーバーインスタンスを root 以外のユーザーで実行するには、<code>/etc/rc*.d/</code> スクリプトを変更して、<code>-c</code> オプション付きの <code>su</code> コマンドを使用するようになります。 <pre>... case "\$1" in 'start') su - usera -c "/usr/sbin/asadmin start-instance --domain test-domain instance-a" su - userb -c "/usr/sbin/asadmin start-instance --domain test-domain instance-b" ;; 'stop') su - usera -c "/usr/sbin/asadmin stop-instance --domain test-domain instance-a" su - userb -c "/usr/sbin/asadmin stop-instance --domain test-domain instance-b" ;; ... </pre> <p>asadmin のコマンド行インタフェースで利用できる、起動とシャットダウンに関するコマンドの詳細は、『Sun ONE Application Server 管理者ガイド』を参照してください。</p>

データベースドライバ

この節では、データベースドライバに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4700531	<p>Solaris 上で、ORACLE JDBC ドライバのエラーが発生する</p> <p>この JDBC ドライバは、JDK 1.4 と連携して機能する Oracle 用の新しいドライバです。Oracle 9.1 データベースと ojdbc14.jar が併用されているために、エラーが発生しています。Oracle 9.0.1.3 データベースを実行している 32 ビット版 Solaris マシンにパッチを適用すれば、問題を修正できます。</p> <p>解決法</p> <p>Oracle の Web サイトからバグ ID 2199718 のパッチを入手し、サーバーに適用します。次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. Oracle の Web サイトに移動します。2. 「パッチ」ボタンをクリックします。3. パッチ ID フィールドに「2199718」と入力します。4. 32 ビット版 Solaris の OS パッチをクリックします。次に、Metalink.oracle.com に移動します。5. パッチをクリックします。6. パッチ ID 2199718 を入力します。7. 32 ビット版 Solaris の OS パッチをクリックします。
4707531	<p>Solaris 上で、Oracle 9.2 クライアントから Oracle 9.1 データベースにアクセスするとデータが壊れる</p> <p>timestamp 列に続いて number 列が存在する場合、Oracle 9.2 クライアントから Oracle 9.1 データベースにアクセスするとデータが壊れることがあります。</p> <p>Oracle 9.1 データベースで ojdbc14.jar ファイルを使用していると、この問題が発生します。Oracle 9.1 データベースを実行している 32 ビット版 Solaris マシンにパッチを適用すれば、問題を修正できます。この JDBC ドライバは、JDK 1.4 と連携して機能する Oracle 用のドライバです。</p> <p>解決法</p> <p>Oracle の Web サイトからバグ ID 2199718 のパッチを入手し、サーバーに適用します。</p>

ID	要約
4991065	<div data-bbox="319 241 1233 262"><p>Oracle JDBC ドライバは、J2EE 1.3 に準拠するように正しく設定する必要がある</p></div> <div data-bbox="319 288 394 309"><p>解決法</p></div> <div data-bbox="319 335 941 355"><p>Type 2 および Type 4 のドライバで、次の設定を行います。</p></div> <div data-bbox="319 381 1305 614"><ol style="list-style-type: none">1. JDBC 9.2.0.3 以降を使用します。2. Oracle のデータベースのパラメータ (init.ora) ファイルには compatible=9.0.0.0.0 が必要です。3. ojdbc14.jar ファイルを使用します。4. Sun ONE Application Server を設定して次の JVM プロパティを定義します。 -Doracle.jdbc.J2EE13Compliant=true</div> <div data-bbox="319 640 1290 749"><p>さらに、Type-2 ドライバの場合は、Sun ONE Application Server を起動する環境に ORACLE_HOME と LD_LIBRARY_PATH (\$ORACLE_HOME/lib が必須) の両方を定義する必要があります。たとえば、asenv.conf ファイルに両方のプロパティを追加し、それがエクスポートされたことを確認します。</p></div>

ID	要約
5022904	<p>DB2 Type 2 ドライバを使用すると、Sun ONE Application Server は、アイドル時間がタイムアウトになった後、接続が増加する</p> <p>シナリオ : DB2 データベースが誤った <code>datasource</code> クラスで設定されている場合は、接続が正しく閉じられないため、Sun ONE Application Server は 接続プールにある接続を使い切ってしまう。</p> <p>解決法</p> <p>この問題を回避するには、DB2 Type 2 ドライバを正しく設定する必要があります。これらの例では、デフォルトの DB2 クライアントフォルダ <code>/opt/IBM</code> を使用します。</p> <ol style="list-style-type: none">DB2 サーバーにデータベースエイリアスを使用して、Sun ONE Application Server をホストするマシンに DB2 クライアントをインストールします。Application Server インスタンスの <code>startserv</code> スクリプトを変更して、DB2 環境を設定します。Application Server インスタンスの起動スクリプトに、次の行を追加します。<pre>DB2DIR=/opt/IBM/db2/V8.1 export DB2DIR DB2INSTANCE=db2tmp export DB2INSTANCE</pre>クライアントはパスワードを持つユーザーが所有しているため、次の値を接続プールに追加します。<pre>user:db2inst1 password:db2inst1 databaseName:sample2 dataSourceName com.ibm.db2.jcc.DB2SimpleDataSource</pre>クラスパスを変更して次の値を指定します。<pre>/opt/IBM/db2/V8.1/java/db2jcc.jar /opt/IBM/db2/V8.1/java/db2jcc_license_cu.jar /opt/IBM/db2/V8.1/java/db2jcc_license_cisuz.jar /opt/IBM/db2/V8.1/java/db2java.zip</pre>

Web コンテナ

この節では、Web コンテナの既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4740477	<p>sun-web-app_2_3-0.dtd ファイル内に、タイムアウト要素の構文が正しくない Web キャッシュの例がある</p> <p>この例では、<code>timeout</code> が XML キャッシュオブジェクトを使用するように設定されています。</p> <pre><timeout> 60 </timeout></pre> <p>name パラメータは必須フィールドなので、本来であれば次のように設定しなければなりません。</p> <pre><timeout name="foo">60</timeout></pre> <p>解決法</p> <p>ベリファイアを使用しないでください。</p>

ID	要約
4817642	<p>複数の異なる Web アプリケーションが同じセッション ID を共有できるように設定すると、セキュリティが低下する</p> <p>解決法</p> <p>J2EE 仕様によると、配備した Web アプリケーションごとに、一意のセッションオブジェクト (セッション ID) が割り当てられます。この動作は、Sun ONE Application Server のデフォルトの動作になっています。ただし、インスタンスによっては、複数の異なる Web アプリケーションで同じセッション ID を共有できた方がよい場合があります。そのような場合には、Sun One Application Server の sun-web.xml 配備記述子に特別な配備プロパティを指定して、その特定のアプリケーションが別の Web アプリケーションモジュールを使用するときにセッション ID を再利用できるように、アプリケーションサーバーを設定することができます (Web アプリケーションに最初にアクセスすると、新しい一意のセッション ID が生成される。それ以降に、この特別なプロパティが設定されている別の Web アプリケーションに要求を送信すると、そのクライアントとその Web アプリケーションのために新しいセッション ID は生成されず、同じセッション ID が使用される)。</p> <p>この動作を行うには、配備済みの Web アプリケーションのうち、同じセッションオブジェクトの共有を許可する Web アプリケーションについて、それぞれの reuseSessionId プロパティに true を設定する必要があります。次に例を示します。</p> <pre><?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?> <sun-web-app> <session-config> <cookie-properties> <property name="cookiePath" value = "/" /> <property name="cookieDomain" value = ".sun.com" /> </cookie-properties> </session-config> <property name="reuseSessionID" value="true"/> </sun-web-app></pre> <p>reuseSessionID プロパティが、最後から 2 番目の行で true に設定されています。</p> <p>警告: reuseSessionId プロパティを有効にすると、潜在的にセキュリティが低下する可能性があります (プロパティ自体のセキュリティが脆弱なのではない)。このプロパティは、複数の顧客が同じ Sun ONE Application Server インスタンス上でアプリケーションを実行できるような、ISV などの共有環境では使用しないでください。そのような環境の場合には、デフォルトの J2EE 動作を使用して、同じサーバーインスタンスに配備した複数の異なる Web アプリケーションが個別のセッションオブジェクトを使用する方が、はるかに安全です。</p>
5039545	<p>Sun ONE Application Server から絶対リダイレクトが送信される結果、外部 SSL エンドポイントに問題が発生する</p> <p>解決法</p> <p>sun-web.xml プロパティの relativeRedirectAllowed を追加します。デフォルトは false です。true に設定すると、絶対リダイレクトの代わりに相対リダイレクトが使用できます。</p>

EJB コンテナ

この節では、Enterprise JavaBeans™ (EJB™) に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4735835	<p>ejbFind メソッドから戻された null の PK を正しく処理できない</p> <p>次のコンテナ管理による持続性 (CMP) の例では、ejbFind から 1 個以上の null が戻されます。なお、ここでは、ejbFind が EmployeeEJB Bean によって呼び出され、Bean と同じインスタンス型を戻すものとします。</p> <pre>1. find insurance.employee where insurance.id == 10</pre> <p>insurance に employee が関連付けられていない場合、null を戻します。</p> <pre>2. find all insurance.employee where insurance.id > 10</pre> <p>employee を持たない insurance に対して、null を含む集まりを戻します。</p> <p>結果セット内で最初に null の PK を検出したとき、CMP クライアントは、「param0 cannot be null」という JDOFatalInternalException を受け取ります。</p> <p>単一オブジェクトの検索メソッドの場合、BMP クライアントは、「Null primary key returned from ejbFind method」という EJBException を受け取ります。マルチオブジェクトの検索メソッドの場合、NullPointerException を受け取ります。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>
4744434	<p>ステートフルセッション Bean の使用時に Sun ONE Application Server が Null Pointer 例外をスローする</p> <p>Sun ONE Application Server の EJB コンテナは、ステートフルセッション Bean をキャッシュに格納することにより、パフォーマンスを改善します。キャッシュのオーバーフローが発生すると (キャッシュ内の Bean 数が max-cache-size を超過すると)、コンテナにより、Bean が非活性化されて、ディスクに退避されます。サーバーは NullPointerException をスローします。この問題は、max-cache-size と cache-resize-quantity の差が 8 より小さいときに発生します。</p> <p>解決法</p> <p>max-cache-size と cache-resize-quantity の差が 8 より大きくなるように設定します。または、max-cache-size の値を 0 に設定して、制限なしのキャッシュを使用します。</p>

ID	要約
4951476, 4967645	<p>Java WSDP 1.2 または 1.3 を使用する場合に、<code>javax.ejb.EJBException: org/dom4j/Element</code> 例外がスローされる</p> <p>注：Java Web Services Developer Pack (Java WSDP) 1.2 または 1.3 を使用しないアプリケーションでは、この問題による影響はありません。</p> <p>Java WSDP 1.2 または 1.3 がインストールされ、Sun ONE Application Server 7 とともに使用するように設定されている場合、EJB コンテナによって、<code>javax.ejb.EJBException:org/dom4j/Element</code> がスローされる可能性があります。</p> <p>解決法</p> <p>最新の <code>dom4j-full.jar</code> を、<code>server.xml</code> ファイルの <code>server-classpath</code> に追加します。このファイルは、http://dom4j.org からダウンロードできます。このファイルのエントリは、<code>server-classpath</code> 内の <code>appserv-jstl.jar</code> エントリの前に追加する必要があります。</p>
4994366	<p><code>ejb-link</code> なしで <code>ejb-local-ref</code> を使用すると、エラーが発生する</p> <p>解決法</p> <p><code>ejb-local-ref</code> には <code>ejb-link</code> が必須です。<code>ejb-local-ref</code> を使用する場合は、<code>ejb-link</code> 値を指定する必要があります。</p>

コンテナ管理による持続性

この節では、コンテナ管理による持続性 (CMP) の既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4732684	<p>Oracle JDBC ドライバの最適化が開始されない</p> <p>コンテナ管理による持続性 (CMP) Bean を使って Oracle データベースを最適化するには、Oracle ドライバファイルを <code>server.xml</code> ファイルの <code>classpath-suffix</code> 属性に指定する必要があります。サードパーティライブラリのデフォルトのディレクトリ <code>/lib</code> には格納しません。</p> <p>解決法</p> <p><code>server.xml</code> ファイルの <code>classpath-suffix</code> 属性に Oracle ドライバファイルを追加します。</p>

ID	要約
4734963	<p>配備時にセルフリファレンス CMR による問題が発生する</p> <p>EJB 配備記述子のパーサー ejb-jar.xml は、自己参照のコンテナ管理関係 (CMR)、すなわち ejb-relationship-role を正しく処理しません。1 対多の 1 側のフィールドはスキップされます。</p> <p>解決法</p> <p>1 の側が (<multiplicity> の多側とともに) ejb-relation の先頭に来るように ejb-relationship-role セクションを変更します。</p>
4747222	<p>Oracle のキャプチャスキーマユーティリティは -schemaname が指定されていないと動作しない</p> <p>capture-schema ユーティリティでは、-schemaname を指定しないで Oracle データベースからデータベーススキーマ情報を取り込もうとすると、次の問題が発生します。</p> <p>1. すべてのテーブルを取り込もうとした場合 (特定のテーブルを明示的に選択しない場合)</p> <pre>bin/capture-schema -dburl jdbc:oracle:thin:@oraserver:1521:ora -username scott -password tiger -driver oracle.jdbc.driver.OracleDriver -out test.dbschema</pre> <p>次のエラーメッセージが表示されます。</p> <pre>java.sql.SQLException ORA-00942:table or view does not exist.</pre> <p>出力ファイルは壊れています。</p> <p>2. -table オプションを使って 1 個以上のテーブルを指定した場合</p> <pre>bin/capture-schema -dburl jdbc:oracle:thin:@oraserver:1521:ora -username scott -password tiger -driver oracle.jdbc.driver.OracleDriver -table DEPT -out test.dbschema</pre> <p>出力ファイルには指定のテーブルが書き込まれますが、カラム情報は書き込まれません。したがって、このファイルで CMP マッピングを行うことはできません。</p> <p>解決法</p> <p>Oracle データベースからスキーマを取り込むときは、必ず -schemaname オプションを使用し、アルファベットの英文字でユーザー名を指定してください。</p> <pre>bin/capture-schema -dburl jdbc:oracle:thin:@oraserver:1521:ora -username scott -password tiger -driver oracle.jdbc.driver.OracleDriver -schemaname SCOTT -out test.dbschema)</pre>

ID	要約
4751235	<p>キャプチャスキーマユーティリティの場合、Oracle または PointBase で -table オプションの値を大文字で指定しないと壊れたファイルが出力される</p> <p>Oracle や PointBase は、二重引用符 ("") で囲まれていない識別子の文字をすべて大文字に変換します。-capture-schema ユーティリティで Oracle または PointBase からデータベーススキーマを取り込むとき、-table オプションの引数として小文字だけ (-table student など)、または大文字と小文字 (-table Student など) でテーブル名を指定すると、正しく処理されません。対応するテーブルのカラム情報を含まないデータベーススキーマファイルが生成されます。</p> <p>解決法</p> <p>テーブル名はすべて大文字で指定してください (-table STUDENT など)。</p>

Message Service とメッセージ駆動型 Beans

この節では、Java Message Service (JMS)、Sun ONE Message Queue およびメッセージ駆動型 Beans の既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4683029	<p>MQ Solaris/Microsoft Windows スクリプト内の -javahome フラグは、値に空白文字が含まれていると正しく機能しない</p> <p>Sun ONE Message Queue のコマンド行ユーティリティには、その他の Java ランタイムを指定する -javahome オプションが用意されています。このオプションを使用する際、Java ランタイムのパスに空白文字を含めることはできません。空白文字を含むパスの例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none">• Microsoft Windows の場合 : C:\jdk 1.4• Solaris の場合 : /work/java 1.4 <p>この問題は、Sun ONE Application Server インスタンスの起動時に発生します。Sun ONE Application Server インスタンスを起動すると、デフォルトで、対応する Sun ONE Message Queue ブローカインスタンスが起動します。このブローカは、Sun ONE Application Server と同じ Java ランタイムを使用するため、-javahome コマンド行オプションを使って起動します。Sun ONE Application Server 用に設定された Java ランタイム (ブローカでも使用可能) のパスに空白文字が含まれていると、ブローカの起動に失敗します。このため、Sun ONE Application Server インスタンスの起動も失敗します。</p> <p>解決法</p> <p>Sun ONE Application Server の Java ランタイムのパスに空白文字が含まれていないことを確認してください。</p>

Java トランザクションサービス (JTS)

この節では、Java トランザクションサービス (JTS) の既知の問題とその解決方法を示します。

復旧

JDBC ドライバの復旧に関する既知の問題があります。Sun ONE Application Server は、これらの問題に対していくつかの回避策を用意しています。デフォルトでは、ユーザーが明示的に指定しない限り、これらの回避策は使用されません。

- Oracle JDBC ドライバの問題 - Oracle XA Resource 実装の回復メソッドは、入力フラグとは関係なく、繰り返し同じ未確定 Xid のセットを戻します。XA 仕様によると、トランザクションマネージャは、最初に TMSTARTSCAN を使って XAResource.recover を呼び出したあと、TMNOFLAGS を使って、Xid が戻されなくなるまで繰り返し XAResource.recover を呼び出します。

Sun ONE Application Server は、Oracle XA Resource の確認メソッドの問題に対する回避策も用意しています。この回避策を適用するには、server.xml ファイルの transaction-service サブ要素に次のプロパティを追加します。

```
oracle-xa-recovery-workaround
```

プロパティ値は必ず true に設定します。

- Sybase JConnect 5.2 ドライバの問題 - JConnect 5.2 ドライバには、JConnect 5.5 では解決されている既知の問題があります。JConnect 5.2 ドライバを使用する場合は、server.xml ファイルの transaction-service サブ要素に次のプロパティを追加して、復旧を有効にしてください。

```
sybase-xa-recovery-workaround
```

プロパティ値は必ず true に設定します。

トランザクション

server.xml ファイルでは、XA 接続と非 XA 接続の区別に res-type を使用します。接続を区別することで、データを駆動するデータソースの設定が識別されます。たとえば、Datadirect ドライバでは、同じデータソースを XA または非 XA として使用できます。

デフォルトでは、データソースは非 XA です。XA に指定してトランザクションの connpool 要素を付加するには、res-type が必要です。トランザクション内で connpool を正常に機能させるには、server.xml ファイルに次の res-type 属性を追加します。

```
res-type="javax.sql.XADataSource"
```

ID	要約
4689337	<p>非 txn コンテキストの XADatasource 接続は使用できない</p> <p>データベースドライバの既知の問題です。非 txn コンテキストの XADatasource 接続では、Autocommit がデフォルトで false に設定されます。</p> <p>解決法</p> <p>トランザクションではなく非 XA データソースクラスを使って、commit または rollback プログラムを明示的に呼び出します。</p>
4700241	<p>トランザクションのタイムアウト値をゼロ以外に設定するとローカルトランザクションの処理時間が長くなる</p> <p>現在のローカルトランザクションマネージャは、一定のタイムアウト値を持つトランザクションをサポートしません。transaction-service 要素の timeout-in-seconds 属性に 0 より大きい値を指定すると、すべてのローカルトランザクションがグローバルトランザクションとして処理されるため、処理時間が長くなります。さらに、データソースドライバがグローバルトランザクションをサポートしていないと、ローカルトランザクションは失敗します。タイムアウト値が 0 のとき、トランザクションマネージャは、データソースからの応答を無期限に待機します。</p> <p>解決法</p> <p>timeout-in-seconds の値をデフォルトの 0 に戻します。</p>

アプリケーションの配備

この節では、配備に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4403166	<p>Microsoft Windows では、長いパス名がサポートされていない</p> <p>この問題については、12 ページの「インストール、アップグレードおよびアンインストール」を参照してください。</p>

ID	要約
4703680	<p>EJB モジュールを (MDB とともに) 再配備すると、リソース競合例外がスローされる</p> <p>Microsoft Windows 2000 上の Sun ONE Studio 4 でメッセージ駆動型 Beans (MDB) を使用するときには発生する問題です。EJB モジュールに特定のキューを使用する MDB が含まれている場合、同じ EJB モジュールを (同じキューを使用する) 同じ MDB とともに再配備すると、リソースの競合が発生します。その結果、(変更済みの) モジュールを使用できなくなります。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>
4725147	<p>配備する仮想サーバーを選択できない</p> <p>この場合は、仮想サーバー 2 台をまったく同じように設定し、一方をホスト、もう一方をリスナーにします。アプリケーションが 2 台目の仮想サーバーだけに配備されている場合、この仮想サーバーにはアクセスできません。これは、host:port の組み合わせで 1 台目の仮想サーバーが指定されているからです。</p> <p>解決法</p> <p>仮想サーバーのホスト名と元のホスト名が同じにならないようにしてください。特に、同じ HTTP リスナーを使用する場合には注意が必要です。</p>
4734969	<p>Bean パッケージ内の Query クラスでアプリケーションを配備できない</p> <p>コンテナ管理による持続性 (CMP) の code-gen は、concreteImpl 内で JDO Query 変数の完全修飾名を使用しません。Query クラスが抽象 Bean と同じパッケージに格納されている場合は、コンパイルエラーが発生します。</p> <p>解決法</p> <p>Query クラスを別のパッケージに移動させます。</p>
4750461	<p>Solaris で、動的再読み込み時に Sun ONE Application Server がクラッシュする</p> <p>エンタープライズ Bean 数の多い大規模なアプリケーションを動的に読み込もうとすると、クラッシュが発生する場合があります。動的再読み込み機能は、開発環境で、アプリケーションのマイナーチェンジを迅速にテストするために使用されます。許可されているよりも多くのファイル記述子を使用しようとする、クラッシュが発生します。</p> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none">1. /etc/system ファイルに、形式を変えずに次の行を追加して、使用可能なファイル記述子の数を増やします。アプリケーションのサイズによって値を調節できます。<pre>set rlim_fd_max=8192 set rlim_fd_cur=2048</pre>2. システムを再起動します。

ベリファイア

この節では、ベリファイアに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4742545	<p>スタンドアロンベリファイアから EJB クラスが見つからないというエラーが報告される</p> <p>「EJB クラスが見つかりません」というメッセージが表示され、テストに失敗することがあります (EJB Class Not Found)。EJB JAR ファイルによって使用されるエンタープライズ Bean が、同一の EAR アプリケーション内の別の EJB JAR ファイル内にあるその他のエンタープライズ Bean を参照する場合、テスト時に障害が発生します。コネクタ (RAR) に依存する EAR ファイルを検証しようとした場合も、障害メッセージが表示されます。これは、RAR バンドルを、RAR バンドルファイルに依存するエンタープライズ Bean が格納されている EAR ファイル内にパッケージ化する必要がないからです。障害 (コネクタ関連の障害を除く) を報告するのは、スタンドアロンベリファイアだけです。配備コマンドや管理インタフェースによって呼び出されたベリファイアでは、この障害は報告されません。</p> <p>解決法</p> <p>アプリケーション EAR のパッケージ化が正しいことを確認します。ユーティリティ JAR ファイルを使用している場合は、EAR ファイル内にパッケージ化されます。参照エラーを解決するには、<code>asadmin</code> または管理インタフェースを使って配備バックエンドからベリファイアを呼び出します。コネクタ関連の障害が発生する場合は、ベリファイアのクラスパスに、必要なクラスを持つ JAR ファイルを配置します。<code>install_root/bin/verifier[.bat]</code> ファイルを開き、<code>JVM_CLASSPATH</code> 変数の末尾に <code>LOCAL_CLASSPATH</code> 変数を追加できます。<code>LOCAL_CLASSPATH</code> 変数にローカルでクラスを追加したあと、ベリファイアを実行します。</p>

設定

- `java-config` 要素の `env-classpath-ignored` 属性のデフォルト値は `true`
- このリリースでは実装されない
 - `server.xml` ファイルの `java-config` 要素の `bytecode-preprocessors` 属性 (将来のパフォーマンスパッチで提供される予定)
- このリリースでは推奨されない
 - `is-cache-overflow-allowed`
 - `max-wait-time-in-millis`
- J2EE 1.4 アーキテクチャの変更により、将来のリリースではサポートされない要素がある
 - `mdb-container` 要素の `cmt-max-runtime-exceptions` プロパティ

次の表に、Sun ONE Application Server 7 の設定に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4742559	<p data-bbox="319 317 1140 345">IPv6 を使用しないネットワークでは、この問題による影響はありません。</p> <p data-bbox="319 366 1286 482">Sun ONE Application Server は、デフォルトで IPv4 を使用します。これは、Sun ONE Application Server を使用できるすべてのプラットフォームでサポートされています。特定のプラットフォームでは、IPv6 がサポートされています。このようなプラットフォームでは、Sun ONE Application Server の設定を変更する必要があります。</p> <p data-bbox="319 499 1300 583">注：設定を変更する場合は、プラットフォームで IPv6 が確実にサポートされることを確認してください。IPv4 しかサポートしないシステムに IPv6 関連の設定を適用すると、サーバーインスタンスが起動しなくなることがあります。</p> <p data-bbox="319 604 394 626">解決法</p> <p data-bbox="319 651 708 673">次の手順に従って設定を変更します。</p> <ol data-bbox="319 696 1293 1355" style="list-style-type: none"> 1. 管理サーバーを起動します。 2. 管理インタフェースを起動します (ブラウザに HTTP ホスト名とポート名を指定し、管理サーバーに接続)。 3. IPv6 用に設定するアプリケーションサーバーインスタンスを選択します (server1 など)。 4. ツリービューで HTTP リスナーノードを展開します。 5. IPv6 用に設定する HTTP リスナーを選択します (http-listener1 など)。 6. 「一般」の「IP アドレス」フィールドの値を ANY に変更します。 7. 「詳細」の「ファミリー」フィールドの値を INET6 に変更します。 <p data-bbox="319 1045 1308 1128">「ファミリー」フィールドの値を INET6 に変更しても、IP アドレスとして IPv6 アドレスを選択しないかぎり、IPv4 の機能は有効です。「IP アドレス」の値が ANY の場合、IPv4 と IPv6 の両方のアドレスが有効になります。</p> <ol data-bbox="319 1150 1186 1355" style="list-style-type: none"> 8. 「保存」をクリックします。 9. 左側のペインで、サーバーインスタンスを選択します。 10. 「変更の適用」をクリックします。 11. 「停止」をクリックします。 12. 「起動」をクリックします。サーバーが再起動し、変更内容が有効になります。

配備記述子

この節では、配備記述子に関する既知の問題を示します。

sun-cmp-mapping.xml の問題

- このリリースでは実装されない
 - check-modified-at-commit
 - lock-when-modified

sun-ejb-jar.xml の問題

- このリリースでは推奨されない
 - is-cache-overflow-allowed
 - max-wait-time-in-millis

監視

この節では、監視に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4734595	<p>失敗した接続の合計数を確認するテストで、値が表示されない</p> <p>リファレンス実装 (RI) 内のダブルプーリングによって発生する問題です。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>
4737227	<p>http-server で FlagAsyncEnabled の値が 1 に設定されない</p> <p>Sun ONE Web Server の既知の問題です。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>

ID	要約
4752199	<p><code>getPrimaryKey()</code>、<code>getEJBMetaData()</code>、<code>getHomeHandle()</code> メソッドでは、監視 Bean メソッドの属性値が表示されない</p> <p>監視ツールで、エンタープライズ Bean 内の監視可能なメソッドを確認できます。 <code>getPrimaryKey()</code>、<code>getEJBMetaData()</code>、<code>getHomeHandle()</code> メソッドについては、メソッドレベルの監視属性の値が常に 0 になります。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>

サーバーの管理

この節では次の項目について説明します。

- [コマンド行インタフェース \(CLI\)](#)
- [管理インフラストラクチャ](#)
- [管理インタフェース](#)

コマンド行インタフェース (CLI)

この節では、コマンド行インタフェースに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4676889	<p>シングルモードで実行する CLI コマンドの文字数が 256 文字を超える場合、オーバーフローが発生する</p> <p>UNIX では、シングルモードで実行する CLI コマンドの文字数が 256 文字を超える場合、コマンドの実行に失敗し、「コマンドが見つかりません」という次のエラーが表示されます。 ...Command Not Found...</p> <p>これは端末の問題で、CLI の制限ではありません。</p> <p>例</p> <pre>create-jdbc-connection-pool --instance server4 --datasourceuser admin --datasourcepassword adminadmin --datasourceclassname test --datasourceurl test --minpoolsize=8 --maxpoolsize=32 --maxwait=60000 --poolresize=2 --idletimeout=300 --connectionvalidate=false --validationmethod=auto-commit --failconnection=false --description test sample_connectionpoolid)</pre> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none">1. 実行するコマンドの文字数が 256 文字を超える場合は、マルチモードを使用してください。2. シングルモードを使用する必要がある場合は、OpenWindows コマンドツール (cmdtool) を使ってコマンドを実行してください。
4680409	<p>SSL を使用するように設定したあと、CLI からブラウザクライアントからも管理サーバーにアクセスできない</p> <p>解決法</p> <p>SSL を使って管理サーバーにアクセスする各クライアントに Sun ONE Application Server 証明書をインポートし、この証明書を持ったサーバーが信頼できるサーバーであると規定します。証明書をインポートして信頼を獲得する方法は、ブラウザによって異なります。詳細については、ご使用のブラウザのオンラインヘルプを参照してください。</p> <p>CLI では、サーバーの証明書が <code>servercert.cer</code> ファイル内にあり、インストールディレクトリが <code>/INSTALL</code> である場合、次のコマンドを実行します。</p> <pre>keytool -import -file servercert.cer -alias server -keystore /INSTALL/jdk/jre/lib/security/cacerts</pre> <p>注: この問題の発生を防止するには、管理サーバーが SSL を使用するように設定する前に、サーバーとクライアントの両方に管理サーバーの証明書をインストールしておきます。</p>

ID	要約
4688386	<p>シングルモードの CLI コマンドでアスタリスク (*) を使用すると、予期しない結果になる。または、エラーメッセージが表示される</p> <p>アスタリスクは、シェルによって複数の名前のリストに変換されます。コマンド行インタフェース (CLI) コマンドは、このリストの情報を受け取ります。複数の名前のリストに変換されるのを防ぐには、アスタリスクを引用符で囲みます。この場合、CLI はアスタリスクそのものを受け取ります。</p> <p>解決法</p> <p>アスタリスクを引用符または二重引用符で囲みます。</p>
4701361	<p>変更を繰り返し適用するとメモリー不足エラーになる</p> <p>管理サーバーは、メモリーを使用して、システムの全変更記録を保持しています。再設定を行うと、この変更記録 (変更内容自体ではない) は破棄され、メモリーが解放されます。</p> <p>解決法</p> <p>asadmin reconfig コマンドを定期的に行い、古い変更記録を破棄してください。</p>
4704328	<p>重複したドメインを作成する呼び出しに失敗したとき、クリーンアップが行われない</p> <p>既存のドメインと重複するドメインを作成すると、適切なエラーメッセージが生成されます。この場合、同じ名前のディレクトリが存在しない場合には、create-domain コマンドに -path オプションで指定されたディレクトリが作成されます。このディレクトリを削除しないと、コマンドの実行に失敗します。</p> <p>解決法</p> <p>-path オプションによって作成されたと思われる余分な空ディレクトリをすべて削除します。</p>
4708813	<p>デフォルト (pointbase) 接続プール JDBC リソースを監視できない</p> <p>JDBC 接続プールは、オンデマンドで動的に作成されます。つまり、プールははじめて使用するときに作成されます。プールが作成されていない (使用されていない) 場合、監視を行うことはできません。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>

ID	要約
4722007	<p>監視: 1 ミリ秒よりも短い実行時間を測定できない</p> <p>エンティティ Bean メソッドを監視しているとき、<code>execution-time-millis</code> 属性の値が -1 になります。たとえば、次のコマンドを実行するとします。</p> <pre>iasadmin>get -m server1.application.usecase1app.ejb-module.UseCase1Ejb_jar.entity-bea n. BeanOne.bean-method.method_create0.*</pre> <p>次の属性が戻されます。</p> <pre>Attribute name = total-num-errors Value = 0 Attribute name = method-name Value = public abstract com.ipplanet.ias.perf.jts.UseCase1.ejb.BeanOneRemote com.ipplanet.ias.perf.jts.UseCase1.ejb.BeanOneHome.create() throws javax.ejb.CreateException, java.rmi.RemoteException Attribute name = total-num-calls Value = 0 Attribute name = total-num-success Value = 0 Attribute name = execution-time-millis Value = -1</pre> <p>監視を開始する前に、<code>execution-time-millis</code> のデフォルト値は -1 に設定されます。これは、その時点で属性値を無効にするためです。このように非常に低い値が設定されるのは、デフォルト値が 0 になっていると、すでに実行時間が測定されていたと誤って判断されるからです。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>
4733109	<p>コマンド行インタフェースで作成した持続マネージャファクトリリソースを表示しているとき、管理インタフェースにペリファイアのエラーが報告される</p> <p>コマンド行インタフェースで作成された持続マネージャファクトリリソースを管理インタフェースに表示しているとき、リソースに関する次のエラーが報告されます。</p> <pre>ArgChecker Failure: Validation failed for jndiName: object must be non-null</pre> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>

ID	要約
4742993	<p>Solaris で、Solaris に統合されている Sun ONE Application Server 上で flexanlg コマンドを使用すると、オープン障害が発生する</p> <p>Solaris オペレーティング環境に統合されている Sun ONE Application Server を実行している場合、/usr/appserver/bin から flexanlg コマンドを実行すると、オープン障害エラーが発生します。</p> <pre>ld.so.1:/usr/appserver/bin/flexanlg: fatal: libplc4.so: open failed: No such file or directory Killed</pre> <p>解決法</p> <p>次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none">LD_LIBRARY_PATH ファイルに次のエントリを追加します。 <pre>/usr/lib/mps</pre> <ol style="list-style-type: none">flexanlg コマンドを実行します。 <pre>% /usr/appserver/bin/flexanlg</pre>
4750518	<p>ターゲット管理サーバー上で一部の CLI コマンドが動作しない</p> <p>ターゲット管理サーバーの CLI では、create、delete、list コマンドを使って、管理サーバーの server.xml ファイル内で新しい要素 (SSL、mime、プロファイラ、リソースなど) を作成、削除、一覧表示することができません。</p> <p>解決法</p> <p>管理サーバー内で要素を作成、削除、一覧表示するには、管理インタフェースを使用します。</p>

管理インフラストラクチャ

この節では、管理インフラストラクチャに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4676888	<p>Microsoft Windows 2000 では、JVM ヒープサイズが大きいと JVM を作成できない</p> <p>Windows 2000 で JVM ヒープサイズを大きくしようとすると、次のエラーメッセージが表示されます。</p> <p>Error occurred during initialization of VM, Could not reserve enough space for object heap Internal error: unable to create JVM</p> <p>解決法</p> <p>Windows 2000 で、Sun ONE Application Server の JAVA ヒープサイズを大きくするには、Sun ONE Application Server の DLL を再設定 (rebase) する必要があります。</p> <p>Microsoft Framework SDK と Microsoft Visual Studio に付属している Rebase ユーティリティを使って、複数の DLL に、アドレスから始まる (JVM ヒープの可用性を向上させる) 最適なベースアドレスを設定できます。SDK Help Rebase トピックでは、アドレス 0x6000000 の使用を推奨しています。Rebase ユーティリティの詳細については、次の URL を参照してください。</p> <p>http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/en-us/tools/tools/performance_tools.asp</p> <p>要件</p> <ul style="list-style-type: none">• 2 ～ 4G バイトのメモリーを持つ Windows 2000 システム• Visual Studio または Microsoft Framework SDK の Rebase ユーティリティ <p>S1AS 動的ライブラリに Rebase ユーティリティを適用するには、次の手順に従ってください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. cd コマンドを使って <code>install_dir\bin</code> に移動します。2. <code>rebase -b 0x6000000 *.dll</code>3. <code>cd ../lib</code>4. <code>rebase -b 0x6600000 *.dll</code>
4686003	<p>HTTP の QOS 制限が適用されない</p> <p>サービス品質 (QOS) では、最大 HTTP 接続数と帯域幅を指定できます。これらの属性の制限値を超えると、クライアントに 503 エラーが戻されます。しかし、管理インタフェースを使って QOS を有効にすると、サーバーは QOS の制限を適用しなくなります。</p> <p>解決法</p> <p>QOS 機能をすべて有効にするには、仮想サーバーの <code>obj.conf</code> ファイル内のデフォルトオブジェクトの先頭に <code>AuthTrans fn=qos-handler</code> 行を手動で追加します。qos-handler サーバーアプリケーション関数 (SAF) と <code>obj.conf</code> 設定ファイルについては、『Developer's Guide to NSAPI』を参照してください。</p>

ID	要約
4692673	<p>デバッグモード以外のモードで実行していたインスタンスをデバッグモードで再起動すると、失敗することがある</p> <p>「デバッグモードで起動または再起動」チェックボックスをオフにした状態でインスタンスを起動すると、このチェックボックスに関連した設定が機能しなくなります。たとえば、管理インタフェースで「デバッグを有効」チェックボックスを選択しても、チェックボックスはオンになりません。server.xml ファイルの debug-enabled 行の値も false になります (debug-enabled=false)。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>
4699450	<p>Microsoft Windows 2000 で EAR ファイルを配備する際、生成されたファイルのパスの長さが全体で 260 文字を超えると失敗する</p> <p>Windows 2000 では、Java 仮想マシン (JVM) の制限により、生成されたファイルのパス名は 260 文字以下と定められています。これは、JVM の Microsoft Windows サポートに関する問題であり、J2SE 1.5 リリースで修正される予定です。</p> <p>解決法</p> <p>アプリケーションを配備するとき、パスとファイル名の文字数の合計が 260 文字以内に収まるようにします。</p>
4723776	<p>Solaris で、SSL 対応の環境に移行すると、サーバーの起動に失敗する</p> <p>証明書をインストールし、セキュリティを有効にしたあと、Sun ONE Application Server を再起動しようとするとき失敗します。サーバーがパスワードの受け取りに失敗したというメッセージが表示されます。「起動」ボタンを再度クリックすると、サーバーが起動します。SSL が有効になっていないと、パスワードがキャッシュに格納されず、再起動に失敗します。restart コマンドは、非 SSL モードから SSL モードへの移行をサポートしません。</p> <p>注：この問題は、サーバーをはじめて再起動するときだけ発生します。2 回目以降の再起動は正常に行われます。</p> <p>解決法</p> <p>この問題が発生したら、次のことを行なってください。</p> <p>「起動」をクリックします。</p> <p>この問題が発生するのを防ぐには、「再起動」ボタンをクリックしないで、次の手順を実行してください。</p> <p>「停止」をクリックします。</p> <p>「起動」をクリックします。</p>

ID	要約
4724780	<p>別のシステムで作成されたドメインでは管理サーバーを起動できない</p> <ul style="list-style-type: none">PCNFS がマウントされたドライブで作成されたドメインでは、PCNFS ドライブに関する Microsoft の既知の問題により、管理サーバーとその他のインスタンスを起動できません。ディレクトリパスが異なっても、製品がインストールされているローカルドライブで作成されたドメインであれば、管理サーバーもインスタンスも正常に動作します。 <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>
4734184	<p>Microsoft Windows 2000 でコンソールが無効になることがある</p> <p>まれに、配備時やコマンドの実行時に管理サーバーやアプリケーションサーバーインスタンスがハングアップすることがあります。この問題は、コンソールログのテキストが選択されている場合に発生します。テキストの選択を解除すれば、処理は続行します。</p> <p>解決法</p> <p>log-service create-console 属性を false に設定して、server1 インスタンスのコンソール自動作成機能を無効にします。コンソールログ上でマウスボタンをクリックするか Enter キーを押しても問題を解決できます。</p>
4736554	<p>サーバーから安全な HTTP リスナーを削除したあとも、(もう存在しない) パスワードの入力を求めるプロンプトが表示される</p> <p>解決法</p> <p>サーバー全体を削除し、追加し直します。</p> <p>注: この問題の発生を防止するには、HTTP リスナーを削除する前に、次のコマンドを使ってセキュリティの設定を無効にします。</p> <pre>/export2/build/bin/> asadmin set --user admin --password adminadmin server1.http-listener.http-listener-1.securityEnabled=false Attribute securityEnabled set to false. /export2/build/bin/> asadmin delete-http-listener --user admin --password adminadmin ls2 Deleted Http listener with id = ls2</pre>
4737756	<p>Microsoft Windows 2000 で、コンソールにメッセージが正しく表示されない</p> <p>Windows 2000 の英語以外のロケール (日本語ロケールなど) では、コンソールにメッセージが正しく表示されないことがあります。</p> <p>解決法</p> <p>管理インタフェースを使ってログメッセージを表示します。</p>

ID	要約
4739831	<p>インスタンスの一部が削除されていると、一部の CLI コマンドから正しい応答を得ることができない</p> <p>サーバーインスタンスの一部が削除されていると、一部の CLI コマンドで問題が発生します。以下に、問題とその解決方法を示します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. <code>create-instance</code> をローカルモードで実行すると、サブディレクトリが存在していない場合も、インスタンスフォルダ内にインスタンスが存在すると報告される <p>解決法</p> <p>インスタンスディレクトリを手動で削除してから <code>create-instance</code> コマンドを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none">2. <code>list-instances</code> コマンドをローカルモードで実行すると、インスタンス名と状態情報が一部削除された状態で出力される <p>解決法</p> <p>インスタンスディレクトリを手動で削除してから <code>list-instance</code> コマンドを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none">3. Microsoft Windows 2000 で、<code>start-instance</code> コマンドをリモートモードで実行すると、<code>null</code> 文字列が表示される <p>解決法</p> <p>インスタンスディレクトリを手動で削除し、新しいインスタンスを作成してから <code>start-instance</code> コマンドを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none">4. Microsoft Windows 2000 で <code>stop-instance</code> コマンドをローカルモードまたはリモートモードで実行すると、不正な例外が報告される。ローカルモードでは、インスタンスが実行されていないという不正なメッセージが表示される。リモートモードでは、<code>null</code> 文字列が表示される <p>Solaris で、<code>stop-instance</code> コマンドをローカルモードで実行すると、実際には <code>config</code> というディレクトリは存在しないのに、インスタンスの <code>config</code> ディレクトリにアクセスするアクセス権がないというメッセージが表示されます。</p> <p>解決法</p> <p>インスタンスディレクトリを手動で削除します。</p>
4739891	<p>仮想サーバーによって参照されるデフォルトの Web モジュールが存在しない場合、またはこのモジュールの配備が取り消された場合、仮想サーバーを削除しようとすると失敗する</p> <p>解決法</p> <p>仮想サーバーの「デフォルト Web モジュール」フィールドの値を「何も選択されていません」に設定し、「了解」をクリックして変更内容を保存します。その後、仮想サーバーを削除します。</p>

ID	要約
4740022	<p>SNMP: 新しいインスタンスサーバーを追加して起動すると、「END OF MIB」メッセージが表示される</p> <p>インスタンスサーバーとサブエージェントをシャットダウンしないで新しいインスタンスを追加し、起動すると、END OF MIB メッセージが表示されます。</p> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新しいインスタンスを表示するには、サブエージェントとすべてのインスタンスサーバープロセスをシャットダウンします。各サーバー -> 「監視」-> 「SNMP 統計収集を有効」をオンに設定します。その後、各インスタンスサーバーを再起動し、サブエージェントプロセスを1つだけ再起動します。 2. サブエージェントがすでに実行中の場合は、これ以上起動しないでください。Sun ONE Application Server をインストールするときは、必ずマスターエージェントとサブエージェントを1個ずつ使用します(全ドメイン、全インスタンスに共通)。
4737138	<p>Microsoft Windows Services や DOS プロンプトにライセンスの有効期限切れを示すメッセージが表示されない</p> <p>サーバーを、Windows の「サービス」の画面から起動した場合、および DOS プロンプトからコマンド(startserv.bat)を使用して起動した場合、たとえライセンスが期限切れになっていても、ライセンスの期限切れを示す適切なメッセージが表示されません。</p> <p>解決法</p> <p>CLI (asadmin) または Sun のプログラムアイコンからサーバーを起動します。</p>
4780488	<p>複数の obj.conf ファイルが存在すると、混乱が生じる</p> <p>Sun ONE Application Server インスタンスを作成すると、<i>instance-dir/config/</i> ディレクトリに <i>obj.conf</i> と <i>virtual-server-name-obj.conf</i> と呼ばれる2つの <i>obj.conf</i> ファイルが格納されます。<i>virtual-server-name</i> はインスタンスの作成時に自動的に作成される仮想サーバーのインスタンス名です。このマニュアルでは、対象の仮想サーバーと関連する <i>obj.conf</i> ファイルを変更することを、「<i>obj.conf</i> ファイルの変更」と表現します。</p> <p>Sun ONE Application Server がインストールされている場合、<i>obj.conf</i> と <i>server1-obj.conf</i> ファイルは <i>/domains/domain1/server1/config/</i> ディレクトリに格納されます。<i>obj.conf</i> ファイルの内容は仮想サーバーレベルで指定された <i>server1-obj.conf</i> ファイルの内容に置き換えられます。Sun ONE Application Server インスタンスは <i>obj.conf</i> を使用しません。</p> <p>たとえば、Web サーバープラグインを使って Sun ONE Application Server を設定する際、<i>obj.conf</i> ファイルを変更すると、不正な <i>obj.conf</i> ファイルが変更されるので、パスルー設定が有効になりません。</p> <p>解決法</p> <p><i>obj.conf</i> ファイルを変更する場合は、<i>obj.conf</i> の前に対象の仮想サーバー名が付加されたファイルを変更します。</p>

ID	要約
4938319	<p data-bbox="319 241 1283 296">SSL および Web Server (逆プロキシ) プラグインを使用しているときにエラーが発生する</p> <p data-bbox="319 319 1215 345">SSL および Web Server プラグインを使用しているときに、502 エラーが発生します。</p> <p data-bbox="319 368 394 388">解決法</p> <p data-bbox="319 411 1296 557">Sun ONE Web Server の <code>magnus.conf</code> ファイルと Sun ONE Application Server の <code>init.conf</code> ファイルの <code>keepAliveTimeout</code> 値を同じ値に設定します。これらの値が異なっていると、Application Server から Web Server に接続しているとき、または Web Server から Application Server に接続しているときに、接続が閉じることがあります。接続がすでに閉じている場合は、502 エラーが表示されます。</p>
6092475	<p data-bbox="319 574 1300 661">Intel ベースのハードウェア (Solaris x86、Linux、Microsoft Windows など) 上で Sun ONE Web Server 6.1 と Web Server (逆プロキシ) プラグインを実行すると、Sun ONE Web Server は重負荷状態となり、クラッシュや再起動することがある</p> <p data-bbox="319 683 394 704">解決法</p> <p data-bbox="319 727 1305 782">この問題を修正するには、<code>magnus.conf</code> ファイルで次の構成変更を行い、Web Server インスタンスを再起動します。</p> <p data-bbox="319 805 534 826"><code>KernelThreads 1</code></p> <p data-bbox="319 848 491 869"><code>RqThrottle 1</code></p> <p data-bbox="319 892 1305 979">このような変更によって、Sun ONE Web Server 6.1 は、Intel ベースのハードウェア上で適切に調整されない NSCP スレッドを作成するのではなく、Intel プラットフォームハードウェア上の固有の OS スレッドを使用するようになります。</p> <p data-bbox="319 1001 1286 1057">これらの設定は、Sun Solaris SPARC などの他のハードウェアプラットフォームでは必要ありません。</p>

ID	要約
6157476	<p>UNIX プラットフォームで、Sun ONE Application Server のドメインおよびインスタンスの「sysuser」と同一グループ内のユーザーが、配備されたアプリケーションへの書き込みアクセス権を持っていない</p> <p>解決法</p> <p>この問題の回避方法：</p> <ol style="list-style-type: none">1. -sysuser オプションでドメインを作成します。2. システムユーザーとして、コマンドプロンプトで <code>umask 2</code> を実行し、ユーザーマスクを 2 に変更します。この変更によって、Sun ONE Application Server で作成されたすべてのファイルに対してグループ書き込み許可が与えられます。3. 管理サーバーを再起動します。4. インスタンスディレクトリ内で <code>chmod -R 775 applications</code> を実行し、サーバーインスタンスのアプリケーションディレクトリに対してグループ書き込み許可を与えます。 <p>これで、配備されたアプリケーションのファイルに対して、グループ書き込み許可が与えられます。追加の背景的知識と詳細情報については、『Info Doc 77800』を参照してください。</p>

管理インタフェース

管理インタフェースを使用するときは、ブラウザがキャッシュからではなくサーバーから最新のページを取り出す設定になっているかどうかを確認してください。一般に、デフォルトのブラウザ設定では問題は発生しません。

- Internet Explorer では、「ツール」->「インターネットオプション」->「設定」を選択し、「保存しているページの新しいバージョンの確認」で「確認しない」が選択されていないことを確認します。
- Netscape では、「編集」->「設定」->「詳細」->「キャッシュ」->「キャッシュにあるページとネットワーク上のページの比較」を選択し、「しない」が選択されていないことを確認します。

この節では、Sun ONE Application Server 7 の管理用グラフィカルユーザーインタフェースに関する既知問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4722607	<p data-bbox="319 270 1286 328">Microsoft Windows 2000 では、新しく作成された MIME ファイルに .types 拡張子が付いていないと、このファイル内のエントリを編集または削除できない</p> <p data-bbox="319 348 1258 434">Windows 2000 では、MIME ファイル名に必ず .types 拡張子を付けます。そうしないと、ファイル内のエントリを編集できません。MIME ファイル名は、mime2 ではなく mime2.types のようになります。</p> <p data-bbox="319 454 394 475">解決法</p> <p data-bbox="319 496 975 524">MIME ファイル名には必ず .types 拡張子を付けてください。</p>

ID	要約
4725473	<p>管理インタフェースのニックネームリストに外部証明書のニックネームが表示されない</p> <p>Sun ONE Application Server 管理インタフェースを使って外部証明書をインストールした場合、外部暗号化モジュール上にインストールされた証明書を使って HTTP リスナーで SSL を有効にしようとする問題が発生します。証明書は正しくインストールされていますが、管理インタフェースに証明書のニックネームが表示されません。</p> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none">1. 管理ユーザーとして、Sun ONE Application Server のインストールマシンにログインします。2. HTTP リスナーと外部暗号化モジュール上にインストールされた証明書をリンクします。asadmin コマンドを実行します。asadmin コマンドの詳細については、asadmin(1M) のマニュアルページを参照してください。 <pre>/sun/appserver7/bin/asadmin create-ssl --user admin --password password --host host_name --port 8888 --type http-listener --certname nobody@apprealm:Server-Cert --instance server1 --ssl3enabled=true --ssl3tlsciphers +rsa_rc4_128_md5 http-listener-1</pre> <p>このコマンドは、証明書とサーバーインスタンスをリンクします。証明書のインストールは行いません (証明書は管理インタフェースを使用してインストール済み)。証明書と HTTP リスナーのリンクは確立されていますが、HTTP リスナーは SSL 以外のモードで待機します。</p> <ol style="list-style-type: none">3. 次の CLI コマンドを使って、HTTP リスナーが SSL モードで待機するように設定します。 <pre>/sun/appserver7/bin/asadmin set --user admin --password password --host host_name --port 8888 server1.http-listener.http-listener-1.securityEnabled=true</pre> <p>このコマンドは、サーバーインスタンスの待機モードを SSL 以外のモードから SSL へ切り替えます。</p> <p>上記の手順が完了すると、管理インタフェースに証明書が表示されます。</p> <ol style="list-style-type: none">4. これで、管理インタフェースを使って HTTP リスナーを編集できる状態になりました。

ID	要約
4728718	<p>新しい仮想サーバーを作成し、ログファイルの場所を示す値を指定すると、「ファイルが見つかりません」というエラーが報告される</p> <p>管理インタフェースのログファイルフィールドでは、値を追加できません。</p> <p>解決法</p> <p>作成した仮想サーバーをいったん削除し、必要なファイルを作成します。その後、再度仮想サーバーを作成します。</p> <p>注：この問題の発生を防止するには、新しい仮想サーバーを作成する前にログファイルを作成するようにします。</p>
4741123	<p>Solaris 9 update 2 のデフォルトのブラウザは、Sun ONE Application Server 7 と互換性がない</p> <p>Solaris 9 4/03 オペレーティング環境のデフォルトのブラウザで Sun ONE Application Server の管理インタフェースを使用しようとすると、次のエラーメッセージが表示されます。</p> <p>Unsupported Browser: Netscape 4.78.</p> <p>It is recommended that you upgrade your browser to Netscape 4.79 or Netscape 6.2 to run the Sun ONE Application Server UI. Those who choose not to continue and not upgrade might notice degraded performance and/or unexpected behavior.</p> <p>注：Solaris 9 4/03 オペレーティング環境に含まれている Sun ONE Application Server の管理インタフェースを実行中の場合は、Netscape 4.79 または 7.0 を使用する必要があります。</p> <p>解決法</p> <ul style="list-style-type: none">• スタンドアロンの Sun ONE Application Server 7 用のブラウザを Netscape 4.79 あるいは Netscape 6.2 にアップグレードするには、/usr/dt/bin/netscape ではなく、/usr/dt/bin/netscape6 を使います。• Solaris にバンドルされている Sun ONE Application Server 7 用のブラウザを Netscape 4.79 あるいは Netscape 7 にアップグレードするには、/usr/dt/bin/netscape ではなく、/usr/dt/appconfig/SUNWns/netscape を使います。

ID	要約
4750616	<p>Netscape Navigator の一部のバージョンではアクセス制御リスト (ACL) の編集がサポートされない</p> <p>Netscape Navigator バージョン 6.x または 7.x の使用時に ACL エントリを編集しようとする、ブラウザが表示されなくなる、ACL 編集画面が表示されないなどの問題が断続的に発生します。</p> <p>解決法</p> <p>次のいずれかの措置をとります。</p> <ul style="list-style-type: none"> サポートされている Netscape Navigator 4.79 を使用します。 手動で ACL ファイルを編集します。ACL ファイル形式の詳細については、『Sun ONE Application Server 管理者ガイド』を参照してください。
4752055	<p>Netscape 4.8 を使用すると、管理インタフェースに警告メッセージが表示される</p> <p>Netscape 4.8 を使って管理インタフェースにアクセスすると、Netscape 4.8 はサポートされていないブラウザであるという警告メッセージが表示されます。Netscape 4.8 で管理インタフェースを実行しても問題は確認されていませんが、より徹底したテストが必要とされています。</p> <p>解決法</p> <p>引き続き管理インタフェースを使用する場合は、警告メッセージの「継続」リンクを選択します。</p> <p>Netscape 4.79 を使用するか、Netscape 6.2 にアップグレードします。</p>
4760714	<p>「証明書をインストール」画面に無効な「ヘルプ」ボタンが表示される</p> <p>「証明書をインストール」画面には、入力された証明書情報が一覧表示されます。管理インタフェースのこの画面に無効な「ヘルプ」ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、ヘルプページが見つからないというエラーメッセージが表示されます。コンテキストヘルプを使用するには、ページ上部の「ヘルプ」リンクをクリックする必要があります。</p> <p>解決法</p> <p>コンテキストヘルプを使用するには、ページ上部の「ヘルプ」リンクをクリックします。</p>
4760939	<p>SSL: 「証明書ニックネーム」に certutil によって生成された自己署名付き証明書が表示されない</p> <p>自己署名付き証明書が certutil によって生成されていると、管理インタフェースに「証明書ニックネーム」が表示されません。</p> <p>解決法</p> <p>自己署名付き証明書を使用する場合は、server.xml ファイルを手動で編集する必要があります。</p>

ID	要約
4848146	<p>ブラウザでプロキシサーバーを使用している場合、管理インタフェースへアクセスするとエラーが発生する</p> <p>ブラウザがプロキシサーバーを使用するように設定されていて、そのプロキシサーバーでローカルホストを無視するように設定されていない場合、「スタート」メニューから「Start Admin Console」を選択するとエラーが発生します。</p> <p>解決法</p> <p>プロキシサーバーを無効にします。</p> <p>または</p> <p>プロキシサーバーで無視されるドメインのリストにローカルホストを追加します。</p>
4957860	<p>Red Hat Enterprise Linux AS 3.0 上で、MIME タイプを追加できない</p> <p>管理インタフェースを使用して、MIME タイプファイルに MIME タイプを追加しようとすると、エラーが表示され、「Global MIME Types」ページにアクセスできません。</p> <p>解決法</p> <p>この問題は、デフォルトのロケールが、en_US ではなく en_US.UTF-8 に設定されているために発生します。この問題を解決するには、export LANG=en_US と設定し、管理サーバーを再起動します。</p>
5011969	<p>Solaris x86 で、管理インタフェースの HTTP リスナーページと IIOP リスナーページにエラーが発生する</p> <p>解決法</p> <p>この問題は、jss3.jar の特定のバージョンで発生します。次の 2 つの回避策があります。</p> <ol style="list-style-type: none">パッチレベル 115924-03、115925-03、115926-03、115927-03 で、SUNWjss パッケージを最新のバージョンにアップグレードします。サーバーのクラスパスから jss3.jar へのパスを削除します。クラスパスを削除するには、server.xml を開いて編集します。クラスパスから usr/share/lib/mps/secv1/jss3.jar を削除します。明示的に変更していない場合、これはクラスパスの最初のエントリです。server.xml を保存して、asadmin reconfig を実行します。サーバーインスタンスを起動する前に、jss3.jar の名前を変更する必要があります。

Sun ONE Studio 4 プラグイン

この節では、Sun ONE Studio 4, Enterprise Edition (旧称 Forte for Java) の既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4689097	<p>Sun ONE Studio 4 によって使用されるディレクトリのパスに空白文字があるとエラーが発生する</p> <p>ディレクトリ構造に空白文字が含まれていると、Sun ONE Studio 4 が正常にインストールされません。インストーラはインストールパスの空白文字をチェックし、発見するとエラーダイアログを表示します。</p> <p>解決法</p> <p>Sun ONE Application Server の Sun ONE Studio 4 コンポーネントのインストールディレクトリを指定するときは、空白文字を使用しないでください。</p>
4720145	<p>デバッガへの接続中に ConnectionException がスローされる</p> <p>新しいデバッグセッションを作成するかどうかを確認するメッセージが繰り返し表示され、例外がスローされます。</p> <p>解決法</p> <p>IDE を再起動します。</p>
4727932	<p>FFJ で MAD 環境を使用すると問題が発生する</p> <p>Sun ONE Studio 4 で MAD 設定を使用すると、断続的に問題が発生します。</p> <p>解決法</p> <p>Sun ONE Studio 4 では MAD 設定を使用しないでください。</p>
4725779	<p>事前に設定された Sun ONE 固有のプロパティ値がエディタに表示されない</p> <p>Sun ONE Application Server に配備するためにすでに設定された RAR ファイルがある場合、プロパティシートでこのファイルのプロパティ値を確認しようとすると、デフォルトの値だけが表示されます。sun-ra.xml ファイルに指定された値は表示されません。</p> <p>解決法</p> <p>RAR から Sun 固有の記述子 XML ファイルを抽出し、RAR と同じディレクトリに置きます。これで、slas 記述子を編集できるようになります。</p> <p>注: この方法でファイルを編集しても、RAR ファイルの元のコンテンツは変更されません。ただし、サーバーに送信された RAR ファイルには、更新された XML ファイルの内容が追加されます。</p>

ID	要約
4733794	<div data-bbox="319 239 1058 265">アプリケーションノードに適用した EJB 名の変更を配備できない</div> <div data-bbox="319 288 1308 434"><p>アプリケーションノードのコンテキストメニュー (右クリックメニュー) から「EJB 名を表示」を選択したときに表示されるダイアログを使って、アプリケーションのコンテキストで Bean の <code>ejb-name</code> 要素を変更できます。これらの変更は、パッケージ化の一環として作成された <code>alt-dd</code> に適用されます。名前の変更は Sun ONE Application Server の <code>alt-dd</code> には伝達されません。</p><div data-bbox="319 453 395 479">解決法</div><div data-bbox="319 498 544 524"><p>解決法はありません。</p></div></div>

ID	要約
4745283	<p>管理クライアントだけをインストールした場合、アプリケーションクライアントを実行できない</p> <p>管理クライアントまたは Sun ONE Studio プラグインだけをインストールした場合、アプリケーションクライアントを実行できません。アプリケーションクライアントは、管理クライアントとは別のパッケージです。</p> <p>解決法</p> <p>アプリケーションクライアントパッケージをインストールします。このためには、<code>SUNONE_INSTALL_ROOT/bin</code> に格納されている <code>appclient</code> を使って完全インストールを実行するか、Sun ONE Application Server がインストールされているリモートマシンから <code>appclient</code> パッケージを取得します。</p> <p><code>appclient</code> パッケージを取得する方法は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none">1. <code>SUNONE_INSTALL_ROOT/bin/package-appclient[.bat]</code> を実行します。 <p><code>SUNONE_INSTALL_ROOT/lib/appclient/appclient.jar</code> に <code>appclient.jar</code> ファイルが生成されます。</p> <ol style="list-style-type: none">2. Sun ONE Application Server がインストールされていないリモートマシンに <code>appclient.jar</code> を配備し、<code>appclient.jar</code> を展開します。アプリケーションクライアントライブラリと JAR ファイルが格納されているアプリケーションクライアントディレクトリが作成されます。3. <code>appclient.jar</code> ファイルに格納されている <code>bin/appclient</code> スクリプトを編集します。スクリプトをはじめて使用する前に編集を済ませておいてください。<code>%CONFIG_HOME%</code> 文字列は <code>asenv.conf</code> の実際のパス (Windows 2000 の場合は <code>asenv.bat</code>) で置き換えられます。4. <code>asenv.conf</code> (Microsoft Windows の場合は <code>asenv.bat</code>) を次のように設定します。 <pre>%AS_INSTALL%=APPCLIENT_INSTALLED_ROOT %AS_JAVA%=Your_Installed_Java_Home %AS_IMQ_LIB%=APPCLIENT_INSTALLED_ROOT/imq/lib %AS_ACC_CONFIG%=APPCLIENT_INSTALLED_ROOT/config/sun-acc.xml %AS_WEBSERVICES_LIB%=APPCLIENT_INSTALLED_ROOT/lib</pre> <p>注: <code>appclient.jar</code> ファイルは、このファイルが作成されたマシンと同じオペレーティングシステムを実行しているリモートマシンから実行しなければなりません。たとえば、Solaris プラットフォームで作成された <code>appclient.jar</code> は、Windows 2000 上では機能しません。</p> <p>詳細については、<code>package-appclient</code> のマニュアルページを参照してください。</p>

サンプルアプリケーション

- ANT ディレクトリ構造とともにサンプルアプリケーションソースが用意されています。ただし、Sun ONE Studio 用のアプリケーションではないので、EJB モジュールなどのアイコンは表示されません。サンプルの `src` フォルダをマウントすると、ソースファイルだけが表示されます。
- Sun Java Studio は ANT 対応ですが、ANT ターゲットを使ってサンプルアプリケーションを配備することはできません。つまり、`ANT target = all` コマンドの実行結果と、シェルから `ant all` コマンドを実行したときの結果は同じにはなりません。
- 既存の ANT 型アプリケーションは、Sun Java Studio (Sun Java Studio の ANT) を使って正常にコンパイルできます。

この節では、Sun ONE Application Server 7 のサンプルアプリケーションに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4714439	<p>PetStore では、すでに存在するユーザーを重複して追加することができない</p> <p>PetStore サンプルアプリケーションでは、すでに存在するユーザーを追加しようとすると、画面にスタックトレースが表示されます。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>
4726161	<p>変更されたサンプルは、再配備しないかぎり更新されない</p> <p>アプリケーションに小さな変更を加えて再パッケージ化してから、サンプルを再配備すると、次のエラーメッセージが表示されます。</p> <p>「Already Deployed」</p> <p>この問題は Ant ユーティリティと <code>common.xml</code> ファイルを使用しているサンプルで発生します。このユーティリティとファイルには配備ターゲットが存在するため、アプリケーションの配備とリソースの登録が混同されるのです。</p> <p>解決法</p> <p>次のいずれかの措置をとります。</p> <p>Ant ユーティリティ <code>build.xml</code> ファイルを使用するサンプルアプリケーションの多くには、<code>common.xml</code> ファイルが含まれています。この場合は、次のコマンドを入力してください。</p> <pre>% asant deploy_common</pre> <p>それ以外のサンプルアプリケーションの場合は、次のコマンドを入力してください。</p> <pre>% asant undeploy % asant deploy</pre>

ID	要約
4733412	<p>サンプルアプリケーションコンバータの Web モジュール内に余計な JAR ファイルがある</p> <p>コンバータアプリケーションの WEB-INF/lib ディレクトリ内に、余計なステートレスコンバータ EJB JAR ファイルがあります。EAR ファイルは、サンプルアプリケーションディレクトリ内にあります。バンドル版の Solaris ビルドでは、次の場所にあります。</p> <pre>/usr/appserver/samples/ejb/stateless/converter/stateless-converter.ear</pre> <p>このファイルを抽出して、stateless-converter という名前の Web モジュールの WEB-INF/lib ディレクトリに移動すると、余計な JAR ファイルが見つかります。この JAR ファイルは、EJB モジュールを呼び出すすべての Web モジュールに適用されます。問題の原因は、アプリケーションのビルド時に使用する common.xml ファイルにあります。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。サンプルアプリケーションの実行時の機能には影響はありません。</p>
4739854	<p>asadmin を使ったリソースの配備方法の説明がない</p> <p>一部のサンプルのマニュアルには、asadmin コマンドを使ってアプリケーションを配備するようにと記述されているだけで、必要なリソースを作成する手順が記載されていません。</p> <p>解決法</p> <p>asadmin コマンドを使ってアプリケーションまたはリソースを配備できます。サンプルの build.xml ファイルからは詳細情報を取得できます。詳細情報は、asant deploy の実行結果からも確認できます。</p> <p>JDBC/BLOB の例の場合、次の手順で、asadmin を使ってリソースを作成します。なお、ホスト名はjackiel2 とします。管理サーバーのユーザー名、パスワード、ポートは、それぞれ admin、adminadmin、4848 とします。</p> <pre>asadmin create-jdbc-connection-pool --port 4848 --host jackiel2 --password adminadmin --user admin jdbc-simple-pool --datasourceclassname com.pointbase.jdbc.jdbcDataSource--instance server1 asadminset --port 4848 --host jackiel2 --password adminadmin --user admin server1.jdbc-connection-pool.jdbc-simple-pool.property.DatabaseName=jdbc :pointbase:server://localhost/sun-appserv-samples</pre>

ID	要約
4747534	<p>lifecycle-multithreaded サンプルアプリケーションでは、管理ユーザーのパスワードを 8 回も入力しなければならない</p> <p>asant deploy コマンドを使ってサンプルアプリケーションファイル lifecycle-multithreaded.jar を配備する場合、管理ユーザーのパスワードを 8 回入力する必要があります。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>
4748535	<p>その他のサンプルファイルの問題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Logging サンプルの 4 番目のログオプションで複数のログファイルが生成される 2. Logging サンプルには余計な log.properties ファイルが含まれている 3. サンプルのマニュアルに記載されているセキュリティに関する説明が一部間違っている <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ハンドラを閉じてから削除します。GreeterServlet.java 内の initLog() メソッドを参照してください。 <pre>private void initLog(String log_type) { // Remove all handlers Handler[] h = logger.getHandlers(); for (int i = 0; i < h.length; i++) { h[i].close(); //must do this logger.removeHandler(h[i]); } ... }</pre> <p>さらに、append オプションを指定してファイルハンドラを開きます。GreeterServlet.java 内の addHandler() メソッドを参照してください。次のように記述します。</p> <pre>Handler fh = new FileHandler(log_file, true);</pre> <p>の行を次の内容で置き換えます。</p> <pre>Handler fh = new FileHandler(log_file);</pre> <ol style="list-style-type: none"> 2. build.xml ファイルを次のように編集します。 <pre>< <fileset dir="\${src.docroot}" excludes="cvs,annontation"/> > <fileset dir="\${src.docroot}" excludes="cvs,annontation,log.properties"/></pre> <ol style="list-style-type: none"> 3. 「Running the Sample Application」節で、server.policy ファイルにセキュリティ許可エントリを追加する方法の説明から domains/domain1/ を除去します。

ID	要約
4752731	<p>PointBase 4.3 の PointBase 4.4 への置き換え</p> <p>サンプルとともに PointBase をダウンロードし、インストールする手順の説明 (http://hostname:port/samples/docs/pointbase.html) に、PointBase 4.3 という記述があります。正しくは PointBase 4.4 です。</p> <p>解決法</p> <p>「Update Samples Ant Files」の節では、pbtools43.jar ファイルと pbclient43.jar ファイルの代わりに pbtools44.jar ファイルと pbclient44.jar ファイルを使用してください。</p> <p>「Starting PointBase」の節は、UNIX プラットフォーム上に個別にダウンロードし、インストールする PointBase について説明しています。ここで、PointBase の起動には、<code>pointbase_install_dir/tools/server/start_server</code> を使用してください。</p>
5012233	<p>コネクタサンプルの cci.ear ファイルで配備に失敗した</p> <p>外部エンティティが 「http://www.sun.com/software/sunone/appserver/dtds/sun-application-client_1_3-0.dtd」を検出できなかったことを示すエラーメッセージが表示されます。</p> <p>解決法</p> <p><code>sun-application-client.xml</code> を、二重引用符でなく単一引用符を使用するように変更します。</p> <p>サンプル:</p> <pre><!DOCTYPE sun-application-client PUBLIC "-//Sun Microsystems, Inc.//DTD Sun ONE Application Server 7.0 Application Client 1.3//EN" 'http://www.sun.com/software/ sunone/appserver/dtds/sun-application-client_1_3-0.dtd'></pre>

ORB/IIOP リスナー

この節では、ORB/IIOP-Listener に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4743366	<p>server.xml ファイル内の iiop-listener 要素の address 属性には ANY を指定できない</p> <p>デフォルトの設定では、Sun ONE Application Server の iiop-listener 要素のアドレス値は 0.0.0.0 です。このデフォルト設定は、IPv6 インタフェース上で待機しません。システムの IPv4 インタフェース上で待機するだけです。iiop-listener の address 要素の値を ANY にすると、サーバーはシステム上の全インタフェース (IPv4 または IPv6) で待機できますが、この機能はサポートされていません。</p> <p>server.xml ファイル内の iiop-listener 要素の address 属性値を ANY にすると、システムの全インタフェース上での待機が可能になり、IPv4 インタフェースと IPv6 インタフェースが両方ともサポートされます。</p> <p>解決法</p> <p>IPv4 インタフェースと IPv6 インタフェースで、iiop-listener 要素の address の値を "::" にします。この方法は、Solaris 8.0 以上にのみ適用可能です。</p>
4743419	<p>IPv6 アドレスの DNS アドレス検索が失敗する場合、IPv6 アドレスでは RMI-IIOP クライアントが機能しない</p> <p>IPv6 アドレスの DNS 検索が失敗する場合、IPv6 アドレスでは、RMI-IIOP (Remote Method Invocation-Internet Inter-ORB Protocol) のクライアントが機能しません。</p> <p>解決法</p> <p>IPv6 アドレスを検索できるように、配備サイトに DNS (Domain Name Service) を設定します。</p>

ID	要約
4810199	<p>Sun ONE Application Server 7.0 Standard Edition にバンドルされている最適化した CORBA Util delegate をデフォルトで使用できない</p> <p>Sun ONE Application Server 7 のデフォルトのインストールでは高パフォーマンス CORBA Util delegate を使用できません。その結果、JDK バンドル版あるいは Sun ONE Application Server バンドル版の ORB を使用すると、パフォーマンスが著しく低下します。</p> <p>詳細については、『Sun ONE Application Server パフォーマンスチューニングガイド』の「ORB のチューニング」モジュールにある「優れたパフォーマンスの CORBA Util Delegate クラス」節を参照してください。</p> <p>解決法</p> <p>高パフォーマンス CORBA Util Delegate 実装を使用可能にすると、パフォーマンスが著しく向上します。代替の CORBA Util Delegate を有効にするには、Sun ONE Application Server 設定ファイルの <code>server.xml</code> に次のコマンドを追加します。</p> <pre><jvm-options>-Djavax.rmi.CORBA.UtilClass=com.ipplanet.ias.util.orbutil.IasUtilDelegate</jvm-options></pre>
4847269	<p>J2SE 1.3.1_X クライアントが Sun ONE Application Server 7 と通信できない</p> <p>J2SE 1.3.1_X クライアントが Sun ONE Application Server 7 と通信しているときに、クライアントがコアダンプします。</p> <p>解決法</p> <p>このクライアントには、J2SE 1.3.1_04 を使用してください。</p>

国際化 (i18n)

この節では、国際化に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4761017	<p>Solaris バンドル版の場合：管理インタフェースが英語で表示される</p> <p>Solaris バンドル版には、管理サーバーインスタンス用の言語エントリがないので、Sun ONE Application Server 管理インタフェース のローカライズ版では管理インタフェースも英語で表示されます。</p> <p>解決法</p> <p><code>server.xml</code> ファイルに手動でロケールのエントリを設定します。</p>

ID	要約
4957904	<p>ユーザーは、インストール後に中国語版の管理インタフェースを起動できない</p> <p>中国語版の Sun ONE Application Server をインストールしたあとの管理インタフェースは英語で表示されます。</p> <p>解決法</p> <p>server.xml ファイルに手でロケールのエントリを設定し、サーバーを再起動します。</p>
なし	<p>Solaris では Netscape 4.79 ブラウザに関連して、次の制限がある</p> <ul style="list-style-type: none">• Solaris で Netscape 4.79 を使用すると、ローカライズされた JavaScript メッセージが文字化けします。JavaScript では UTF-8 エンコードを処理できません。• Chinese GB18030 ロケールの Solaris で Netscape 4.79 を使用しても、GB18030 文字を使用できません。 <p>解決法</p> <p>Sun の Web サイトから Solaris 版の Netscape 6.23 または 7.0 をダウンロードします。これで両方の問題が解決します。</p>

マニュアル

この節では、マニュアルに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4839719	<p>『Developer's Guide to Web Applications』 : cookieName プロパティの説明が紛らわしい</p> <p>『Developer's Guide to Web Applications』の sun-web.xml ファイルを説明している箇所に、cookie-properties サブ要素の cookieName プロパティの説明があり、cookieName プロパティの値をデフォルト値から変更できるように解釈できます。しかし、この値は変更できません。常に JSESSIONID でなければなりません。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>

ID	要約
4720171	<p>インデックス付き配備ディレクトリの使用方法を説明したマニュアルがない</p> <p>配備済みアプリケーションのディレクトリ名のナンバリングスキーマ部分は、開発者が配備済みアプリケーションに関連付けられた JAR ファイルやクラスファイルを変更するときに使用するインデックス機構として実装されています。Windows プラットフォームでは、このインデックス機構が重要な役割を果たします。Windows プラットフォームでは、読み込み済みのファイルを上書きしようとする共有違反エラーが発生するため、読み込み済みのファイルはロックされます。ファイルは、セッションの起動時にサーバーインスタンスや IDE に読み込まれます。共有違反エラーが発生した場合、次のいずれかの措置をとります。</p> <ul style="list-style-type: none">• 更新されたクラスファイル (元々は JAR ファイルの一部) をコンパイルし、古いクラスよりも先に読み込まれるようにクラスパス内に配置します。次に、Sun ONE Application Server を使ってこのアプリケーションを再読み込みします (再読み込みが有効な場合)。• JAR ファイルを更新し、新しい EAR ファイルを作成して、アプリケーションを再配備します。 <p>注: Solaris プラットフォームでは、ファイルロックの制約がないため、アプリケーションを再配備する必要はありません。</p> <p>解決法</p> <p>IDE の設定、ANT ファイルのコピー、コンパイルその他の操作を行うために Windows プラットフォーム上の配備済みアプリケーションに変更を加えるときは、ファイルロックの制約を回避するため、新しく作成されるディレクトリのインデックス番号が増分する点に注意してください。次に例を示します。Solaris プラットフォームでは、J2EE アプリケーション helloworld は、次のディレクトリ構造で Sun ONE Application Server に配備されます。</p> <pre>appserv/domains/domain1/server1/applications/j2ee-apps/helloworld_1</pre> <p>さらに、この配備済みアプリケーションの一部をなすサーブレット (HelloServlet.java など) に変更が加えられます。Sun Java Studio IDE が起動し、このサーブレットのソースファイルが変更され、コンパイルされます。このとき、javac ターゲットには上記のディレクトリが設定されます。ソースのコンパイル結果が適切な場所に格納されていれば、このアプリケーションの再読み込みファイルが存在しています。また、server.xml の再読み込みフラグは true に設定されています。サーバーインスタンスの実行時は、アプリケーションを再アセンブルして再配備しなくても変更内容が有効になります。</p> <p>Windows プラットフォームでは、ファイルロックの問題により、JAR ファイルやクラスファイルの交換や更新は行えません。この場合、次のいずれかの措置をとります。</p> <ul style="list-style-type: none">• ソースの変更を有効にするには、変更済みソースファイルをコンパイルし、クラスパス内のクラスファイルまたは JAR ファイルを挿入します。• helloworld ソースに変更を加え、アセンブルし、再配備します。以前に配備した helloworld はそのままにしておきます。 <p>2 番目のオプションは、配備済みアプリケーションのディレクトリ名に付加されている増分されたインデックス番号を使用します。したがって、こちらの方式のほうが優先されます。2 番目の helloworld の配備のあと、ディレクトリ構造は次のようになります。</p> <pre>appserv/domains/domain1/server1/applications/j2ee-apps/helloworld_1 appserv/domains/domain1/server1/applications/j2ee-apps/helloworld_2</pre> <p>2 番目の helloworld は helloworld_2 の下に配備されます。</p>

ID	要約
4851218	<p>keytool を使用して、Sun ONE Application Server 用の証明書を作成できない</p> <p>keytool で生成した証明書は、Sun ONE Application Server と互換性がありません。</p> <p>解決法</p> <p>certutil を使用して、自己署名付き証明書を作成することができます。certutil は、Sun ONE Application Server のアドオンとして、次の URL から入手できます。</p> <p>http://www.sun.com/software/download/app_servers.html</p> <p>certutil の使用方法については、次の URL を参照してください。</p> <p>http://www.mozilla.org/projects/security/pki/nss/tools/certutil.html</p>
4870888	<p>製品に付属の『入門ガイド』の記述に間違いがある</p> <p>製品に付属の『入門ガイド』に、プラットフォームとサイズに関して間違った説明が記載されています。また、このガイドは 508 に完全には準拠していません。</p> <p>解決法</p> <p>プラットフォームとサイズに関する正しい情報については、『インストールガイド』または『プラットフォームの概要』を参照してください。508 に準拠した『入門ガイド』については、次の URL にあるマニュアルを参照してください。</p> <p>http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja</p>

ID	要約
4875280	<p>オンラインヘルプに間違った説明がある</p> <p>解決法</p> <ul style="list-style-type: none">• <code>asprfhls.html</code> ファイル <p>SSL3 が有効になっているかどうかを確認します。管理目的の場合は、SSL2 の選択を解除して TLS だけを使用することを推奨します (ファイル名は <code>asprfhls.html</code>)。</p> <p>ブラウザで TLS がサポートされていない場合は、SSL3 を選択してください。</p> <p>この説明を次のように変更します。</p> <p>SSL3 が有効になっているかどうかを確認します。管理目的の場合は、SSL3 の選択を解除して TLS だけを使用することを推奨します。</p> <p>ブラウザで TLS がサポートされていない場合は、SSL3 を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none">• <code>asprflo.html</code> ファイル <p>コンソールを作成</p> <p>(Window のみ)。チェックマークを付けると、<code>stderr</code> 出力のためにコンソールウィンドウが作成されます。</p> <p>この説明を次のように変更します。</p> <p>コンソールを作成</p> <p>(Windows のみ)。チェックマークを付けると、<code>stderr</code> 出力のためにコンソールウィンドウが作成されます。</p>
4884043	<p>『設定ファイルリファレンス』：転送ファイルパラメータのデフォルト値の説明が間違っている</p> <p>解決法</p> <p><code>nsfc.conf</code> ファイルの <code>TransmitFile</code> パラメータのデフォルト値が、マニュアルで次のように記述されています。</p> <p>(UNIX の場合)</p> <p><code>TransmitFile=off</code></p> <p>この記述は間違いです。「転送ファイル」チェックボックスはデフォルトで「有効」になっています。</p>

ID	要約
4890285	<p>一部のマニュアルで Solaris x86 プラットフォームの説明が更新されていない</p> <p>Sun ONE Application Server をサポートしているプラットフォームの一覧がマニュアルに記載されていますが、Solaris x86 プラットフォームの説明が含まれていないことがあります。最新のプラットフォームの説明は、『プラットフォームの概要』を参照してください。</p> <p>『Developer's Guide to NSAPI』：このマニュアル内で「SPARC」と表記されている記述は、すべて「Solaris」に読み替えてください。「Solaris」には、SPARC 版および x86 版を含んでいます。特に、158 ページと 159 ページの記述では、SPARC 版に限定している訳ではありません。</p> <p>解決法</p> <p>このリリースに関する Solaris x86 の制限事項については、4 ページの「Solaris x86 の制限事項」を参照してください。上記のマニュアルでは、これらの制限事項が記載されていないことがあります。</p>
4893954	<p>Solaris cron スクリプトを使用してログローテーションを行うと Sun ONE Application Server を再起動することが『管理者ガイド』に記載されていない</p> <p>解決法</p> <p>次の 2 種類のログローテーションを使用できます。</p> <p>内部デーモンによるログローテーションは、HTTP デーモン内で実行され、起動時にのみ設定できます。内部デーモンによるログローテーションを使用すると、サーバーを再起動しなくともサーバーの内部でログをローテーションさせることができます。</p> <p>スケジュールベース (cron ベース) のログローテーションは、サーバー起動時に初期化されます。ローテーションが有効になっている場合、サーバーは、タイムスタンプが記録されたアクセスログファイルを作成し、ローテーションはサーバーの起動時に開始されます。このタイプのログローテーションでは、内部的に rotatelog スクリプトが呼び出され、このスクリプトがアプリケーションサーバープロセスを再起動します。</p>
4896094	<p>『管理者ガイド』：インストール時に ACC_CONFIG 変数を設定する手順が必要</p> <p>解決法</p> <p>『管理者ガイド』には、ドメインとサーバーインスタンスを作成した後に、ACC_CONFIG 変数を設定するための手順が記載されていません。『Sun ONE Application Server 管理者ガイド』の「アプリケーションの配備」節の後に、次の説明を追加する必要があります。</p> <p>上記の手順以外に、asenv.conf ファイルを変更する必要があります。ドメインを作成したら、AS_ACC_CONFIG 変数の値を server_instance_config ディレクトリの sun-acc.xml ファイルに設定します。この値が正しく設定されていないと、Application Client Container (ACC) に関連するアプリケーションを実行しているときに、エラーが発生する場合があります。次に例を示します。</p> <p>AS_ACC_CONFIG=/var/appserver/domains/domain1/server1/config/sun-acc.xml</p> <p>server1 は、作成したアプリケーションサーバーのインスタンスです。</p>

ID	要約
4913290	<p>フォームベースの認証が、6.5 の場合と同じ機能を提供しない</p> <p>iPlanet Application Server 6.5 で開発された、フォームベースの認証を使用するアプリケーションは、認証フォームまたはログインページに対して要求パラメータを渡すことができるので、6.5 ではログインページをカスタマイズして、入力パラメータを基にした認証パラメータを表示することができます。</p> <p>解決法</p> <p>Sun ONE Application Server 7 では、ログインページを表示しているときに要求パラメータを渡すことはできません。フォームベースの認証を使用し、要求パラメータを渡すアプリケーションは、Sun ONE Application Server 7 に移行できません。このようなアプリケーションを Application Server 7 に移植するには、コードを大幅に変更する必要があります。代わりに、入力パラメータをセッション内に保存し、ログインページの表示中に取得することができます。</p> <p>次にこの問題を解決するためのコードの例を示します。</p> <p>6.5 での変更前のコード</p> <pre>-----index-65.jsp ----- <%@page contentType="text/html"%> <html> <head><title>JSP Page</title></head> <body> go to the secured area </body> </html> -----login-65.jsp----- <%@page contentType="text/html"%> <html> <head> </head> <body> <!-- ログインフォームの出力 --> <h3>Parameters</h3>
 <%out.println("arg1 is " + request.getParameter("arg1")); %> <%out.println("arg2 is " + request.getParameter("arg2")); %> </body> </html></pre>

ID	要約
4913290 (続き)	<p>7.0 での変更後のコード</p> <pre>-----index-7.jsp ----- <%@page contentType="text/html"%> <html> <head><title>JSP Page</title></head> <body> <%session.setAttribute("arg1","test"); %> <%session.setAttribute("arg2","me"); %> go to the secured area </body> </html></pre> <p>index-7.jsp には、要求パラメータをセッション内に保存する方法が示されます。</p> <pre>-----login-7.jsp----- <%@page contentType="text/html"%> <html> <head> </head> <body> <!-- ログインフォームの出力 --> <h3>Parameters</h3>
 <!-- セッションからのパラメータの取得 --> <%out.println("arg1 is " + (String)session.getAttribute("arg1")); %> <%>out.println("arg2 is " + (String)session.getAttribute("arg2")); %> </body> </html></pre>

ID	要約
4913611	<p>J2EE 仕様の互換性の問題について記載されていない</p> <p>解決法</p> <p>『Developer's Guide to Web Applications』：次の記述が <code>delegate</code> 属性の説明に適用されます。</p> <p>「<code>delegate</code> フラグがデフォルト値の <code>false</code> に設定されている場合には、クラスローダの委託動作は Servlet 2.3 仕様のセクション 9.7.2 に準拠します。<code>true</code> に設定されている場合には、コンテナ全体の JAR ライブラリファイルに含まれるクラスとリソースが、WAR ファイル内にパッケージ化されているクラスとリソースより優先して読み込まれます。この動作は、Servlet 2.3 仕様が推奨している仕様に準拠していません。</p> <p>移植性のあるプログラムで <code>delegate</code> フラグが使用されている場合は、それらのプログラムを J2EE 仕様に準拠しているクラスやインタフェースと一緒にパッケージ化しないでください。WAR ファイル内のプログラムにそのようなクラスやインタフェースが含まれる場合、そのプログラムの動作は定義されていません。」</p> <p>『開発者ガイド』および『Developer's Guide to Enterprise JavaBeans Technology』：次の記述が参照渡し要素の説明に適用されます。</p> <p>「<code>pass-by-reference</code> フラグがデフォルト値の <code>false</code> に設定されている場合には、リモートインタフェースを呼び出す引数を渡す方式は EJB 仕様のセクション 5.4 に準拠します。<code>true</code> に設定されている場合には、リモート呼び出しでは値渡しではなく参照渡しが使用されます。</p> <p>移植性のあるプログラムは、リモート呼び出しのときにオブジェクトのコピーが作成されるときには元のオブジェクトを変更しても安全である、という前提で記述しないでください。また、コピーが作成されないときには、元のオブジェクトに対する変更に対して呼び出す側と呼び出される側がアクセスできる、という前提で記述しないでください。</p> <p><code>pass-by-reference</code> フラグが設定されているときには、パラメータと戻り値は読み取り専用とみなされます。そのようなパラメータや戻り値を変更するプログラムの動作は、定義されていません。」</p>
4915451	<p>『管理者ガイド』の <code>idle-timeout-in-seconds</code> の定義が間違っている</p> <p>解決法</p> <p>『Sun ONE Application Server 管理者ガイド』の第 6 章「Sun ONE Application Server の監視」に、<code>idle-timeout-in-seconds</code> の定義に次の文が含まれています。</p> <p>現在のサイズが <code>steady-pool-size</code> より小さい場合、<code>min(current-pool-size+pool+resize-quantity,max-pool-size)</code> を上限として、<code>pool-resize-quantity</code> 分だけ大きくなります。</p> <p>この記述は次のように変更してください。</p> <p>現在のサイズが <code>steady-pool-size</code> より小さい場合、<code>min(current-pool-size+pool-resize-quantity,max-pool-size)</code> を上限として、<code>pool-resize-quantity</code> 分だけ大きくなります。</p>

ID	要約
4950035, 4976502, 5024804	<p>『Sun ONE Application Server 7 パフォーマンスチューニングガイド』で、stats.xml を使用した統計の有効化に関する記述が間違っている</p> <p>解決法</p> <p>『Sun ONE Application Server 7 パフォーマンスチューニングガイド』の「Sun ONE Application Server のチューニング」の章の記述で、stats.xml を使用して統計を有効にする方法の説明に 2 つの間違いがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">記載されている obj.conf ファイルではなく、<i>instance_name</i>-obj.conf ファイルを変更する必要があります。例の記述に間違いがあります。以下のエントリについて、<pre>NameTrans fn="assign-name" from="/stats-xml/*" name="stats-xml"</pre><pre>NameTrans fn=assign-name from="/.perf" name="perf"</pre>この 2 行は次の行の前に置く必要があります。<pre>NameTrans fn=document-root root="\$docroot"</pre>このようにしないと、これらのエントリが無視されます。現在の例では、記述されている行の順序が正しくありません。 <p>図 4.1 および 図 4.2 の紹介が間違っています。</p> <p>図 4.1 は、stats.xml が有効になっている <i>instance_name</i>-obj.conf ファイルの例です。</p> <p>図 4.2 は、stats.xml が有効になっている init.conf ファイルの例です。</p>

ID	要約
4983280, 4992520, 6078104	<p>Web サーバープラグインのインストール手順が間違っている</p> <p>『Sun ONE Application Server 管理者ガイド』に記載された Web サーバープラグインのインストール手順が間違っています。</p> <p>解決法</p> <p>次の手順を実行します。</p> <p>Sun ONE Web Server の変更</p> <p>magnus.conf や obj.conf などの重要な設定ファイルを変更する前にバックアップします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Web サーバーのインストール領域に、Web サーバー (パススルー) プラグインを格納するディレクトリを作成します。次に例を示します。 <pre>cd /webserver_install_dir/plugins mkdir -p passthrough/bin</pre> 2. Sun ONE Application Server のインストールディレクトリからこの新しい Web サーバーディレクトリにパススループラグインをコピーします。次に例を示します。 <pre>cd appserver_install_dir/lib cp libpassthrough.so webserver_install_dir/plugins/passthrough/bin</pre> <p>Windows の場合は、passthrough.dll ファイルをコピーします。</p> 3. <code>webserver_install_dir/https-host.domain/config</code> の下にある <code>magnus.conf</code> ファイルを編集し、次の行を追加します。これらの行には、それぞれ <code>Init</code> で始まる行を 2 つ入力する必要があります。 <pre>Init fn=load-modules shlib="your_app_server_install/lib/libpassthrough.so "funcs="init-passthrough,auth-passthrough,check-passthrough, service-passthrough"NativeThread="no" Init fn="init-passthrough"</pre> 4. <code>webserver_install_dir/https-host.domain/config</code> の下にある <code>obj.conf</code> ファイルを編集し、<code>NameTrans</code> 指令を追加します。1 行で入力する必要があります。<code>NameTrans</code> 指令は表示順に実行されるため、正しい位置に追加するようにします。位置が正しいかどうか不確かな場合は、その他のすべての <code>NameTrans</code> 指令の上に配置します。このファイルで空白 (スペースまたはタブ) を使用する場合には、注意が必要です。<code>obj.conf</code> がパースされると、空白で始まる行は前の行の指令の一部とみなされ、無視されます。次の例では、「<code>webapp-context</code>」という名前のコンテキストルートだけをリダイレクトしています。複数のアプリケーションに対して、複数のコンテキストルート名を追加するか、<code>catch-all</code> 指令 <code>from="/*"</code> を使用します。 <pre><Object name="default"> NameTrans fn="assign-name" from="(/webapp-context /webapp-context/*) "name="passthrough" ... </Object></pre>

ID	要約
4983280, 4992520, 6078104 (続き)	<p>5. Sun ONE Web Server 6.0 の場合、Web サーバーの <code>obj.conf</code> ファイルに次の行を追加します。 <code>app_server.domain:port</code> を Sun ONE Application Server のサーバー名とポート番号に置き換えます。Service 行は 1 行で入力する必要があります。</p> <pre>Object name="passthrough"> ObjectType fn="force-type" type="magnus-internal/passthrough" PathCheck fn="deny-existence" path="*/WEB-INF/*" Service type="magnus-internal/passthrough" fn="service-passthrough" servers="http://app_server.domain:port" Error reason="Bad Gateway" fn="send-error" uri="/badgateway.html" </Object></pre> <p>6. Sun ONE Web Server 6.1 の場合、Web サーバーの <code>obj.conf</code> ファイルに次の行を追加します。 <code>app_server.domain:port</code> を Sun ONE Application Server のサーバー名とポート番号に置き換えます。Service 行は 1 行で入力する必要があります。</p> <pre>Object name="passthrough"> PathCheck fn="deny-existence" path="*/WEB-INF/*" Service type="magnus-internal/passthrough" fn="service-passthrough" servers="http://app_server.domain:port" Error reason="Bad Gateway" fn="send-error" uri="/badgateway.html" </Object></pre> <p>7. Sun ONE Web Server インスタンスを再起動します。</p> <p>認証上の理由により、Sun ONE Application Server で <code>init.conf</code> および <code>server_name-obj.conf</code> を変更しなければならない場合もあります。これらの手順は、Sun ONE Application Server で SSL を使用していない場合に Web サーバーを SSL モードで実行する場合に必要となります。この場合、次の行を適切な Sun ONE Application Server ファイルに追加していない場合は、リダイレクトが失敗します。この情報が不要な場合は、次の手順を無視してください。</p> <p>8. <code>app_server_instance/config/init.conf</code> で、それぞれ Init で始まる次の行を 2 行で追加します。</p> <pre>Init fn="load-modules" shlib="/app_server_install/lib/libpassthrough.so" funcs="init-passthrough,auth-passthrough,check-passthrough, service-passthrough"shlib_flags="(global now)" Init fn="init-passthrough"</pre> <p>9. <code>domain/server_instance/config/server_instance-obj.conf</code> に、次の行を入力します。</p> <pre><Object name="default"> AuthTrans fn="match-browser" browser="*MSIE*" ssl-unclean-shutdown="true" AuthTrans fn="auth-passthrough" </Object></pre>

ID	要約
4986222	<p>JMS に関するマニュアルの記述が間違っている</p> <p>マニュアルで参照している Sun ONE Message Queue のマニュアルのバージョンが間違っています。</p> <p>『管理者用設定ファイルリファレンス』と『Developer's Guide to J2EE Features and Services』に記載された <code>server.xml</code> <code>jms-service</code> プロパティの <code>instance-name</code> の説明が間違っています。</p> <p>解決法</p> <p>Sun ONE Message Queue のマニュアルの正しいバージョンについては、http://docs.sun.com/db/prod/s1.s1msgqu を参照してください。</p> <p><code>jms-service</code> プロパティの <code>instance-name</code> に関する記述では、Sun ONE Message Queue ブローカインスタンス名は、常にドメインとサーバーインスタンス名を連結して名前が付けられると説明されています。この説明は正しくありません。任意の名前を使用できます。</p>
5003309	<p>『管理者ガイド』の「静的コンテンツの配備」のセクションの URL が間違っている</p> <p>解決法</p> <p>URL:</p> <p><code>http://server:port/NASApp/&ltcontext_root/index.html</code></p> <p>の正しい URL は、</p> <p><code>http://server:port/tcontext_root/index.html</code></p>
なし	<p>『J2EE CA SPI Administrator's Guide』で参照されているマニュアルのタイトルが間違っている</p> <p>『Sun ONE Application Server J2EE CA SPI 管理者ガイド』では、『Sun ONE Application Server J2EE CA SPI 開発者ガイド』が参照されています。このタイトルは正しくありません。</p> <p>解決法</p> <p>『Sun ONE Application Server 開発者ガイド』を参照する必要があります。</p>
なし	<p>『Sun ONE Application Server 管理者ガイド』で、Linux の <code>asadmin</code> ユーティリティのエスケープ文字が正しく使用されていない</p> <p>解決法</p> <p>Linux で <code>asadmin</code> コマンドをマルチモードで使用する場合は、単一の円記号を使用して、コロンのような予約文字をエスケープします。例: <code>create-jdbc-connection-pool --datasourceclassname oracle.jdbc.pool.OracleDataSource --property url=jdbc¥:oracle¥:thin¥:@1asperf¥:1521¥:ntdb01":user=testprod:password=testprod rekla-pool</code></p> <p>URL プロパティの値が、JDBC 接続文字列の適切な構文を使用して格納されます。</p>

ID	要約
5015994	<p>推奨設定を追加することで、パフォーマンスを向上する</p> <p>解決法</p> <p>以下で説明する設定を使用して、Sun ONE Application Server のデフォルトの設定を変更すると、パフォーマンスの向上を図ることができます。これらの設定は、サーバーインスタンスの <code>server.xml</code> ファイルにあります。</p> <p>以下の設定の追加または変更を行います。</p> <pre><jvm-options>-server -Xss128k</jvm-options> <jvm-options>-Xms256m -Xmx256m</jvm-options> <jvm-options>-XX:+AggressiveHeap</jvm-options> <jvm-options>-XX:+DisableExplicitGC</jvm-options> <jvm-options>-Djavax.rmi.CORBA.UtilClass=com.iplanet.ias.util.orbutil .IasUtilDelegate </jvm-options> <orb message-fragment-size="1024" steady-thread-pool-size="40" max-thread-pool-size="70" idle-thread-timeout-in-seconds="300" max-connections="1024" monitoring-enabled="false"/> <mdb-container steady-pool-size="32" pool-resize-quantity="16" max-pool-size="1024" idle-timeout-in-seconds="600" monitoring-enabled="false"></pre> <p>以下の設定を削除します。</p> <pre><jvm-options>-Dsun.rmi.dgc.server.gcInterval=3600000</jvm-options></pre> <p>さらに、マシンに十分なメモリーがある場合は、初期ヒープサイズを 1024M バイト (Solaris システムの場合は 3500M バイト) に増やします。</p>

ID	要約												
5031531	<p>『Sun ONE Application Server 7 パフォーマンスチューニングガイド』に、最大ヒープ領域に関する情報がない</p> <p>解決法</p> <p>最大ヒープ領域は、さまざまな要素によって変わります。</p> <ul style="list-style-type: none">• プロセスの最大アドレス領域 (maxPAS)• プロセスがスタック領域に必要とする領域 (stack)• プロセスがライブラリに必要とする領域 (libs) <p>以下の方程式は、最大ヒープ領域の値を示します。</p> $\text{MaxHeapSpace} = \text{maxPAS} - \text{stack} - \text{libs}$ <p>プロセスあたりの最大アドレス領域は、プラットフォームにより異なります。</p> <table><tbody><tr><td>x86 / Redhat Linux 32 bit</td><td>2 GB</td></tr><tr><td>x86 / Redhat Linux 64 bit</td><td>3 GB</td></tr><tr><td>x86 / Win98/2000/NT/Me/XP</td><td>2 GB</td></tr><tr><td>x86 / Solaris x86 (32 bit)</td><td>4 GB</td></tr><tr><td>Sparc / Solaris 32 bit</td><td>4 GB</td></tr><tr><td>Sparc / Solaris 64 bit</td><td>terabytes</td></tr></tbody></table> <p>スタック領域とライブラリ領域は、個別のアプリケーションにより異なります。</p>	x86 / Redhat Linux 32 bit	2 GB	x86 / Redhat Linux 64 bit	3 GB	x86 / Win98/2000/NT/Me/XP	2 GB	x86 / Solaris x86 (32 bit)	4 GB	Sparc / Solaris 32 bit	4 GB	Sparc / Solaris 64 bit	terabytes
x86 / Redhat Linux 32 bit	2 GB												
x86 / Redhat Linux 64 bit	3 GB												
x86 / Win98/2000/NT/Me/XP	2 GB												
x86 / Solaris x86 (32 bit)	4 GB												
Sparc / Solaris 32 bit	4 GB												
Sparc / Solaris 64 bit	terabytes												
6156869	<p>Sun ONE Message Queue 3.0.1 から Sun ONE Message Queue 3.5 への移行についてのマニュアルがない</p> <p>Sun ONE Application Server 7 は、Sun ONE Message Queue 3.01 と同梱されています。ただし、Sun ONE Message Queue 3.5 もサポートされます。Sun ONE Message Queue 3.01 から Sun ONE Message Queue 3.5 へ移行するには、docs.sun.com にある『Sun ONE Message Queue インストールガイド』の手順に従ってください。次のサイトを参照してください。</p> <p>http://docs.sun.com/source/817-3725/intro.html#wp23155</p>												

再配布可能なファイル

Sun ONE Application Server 7 には再配布可能なファイルは含まれていません。

問題の報告およびフィードバックの方法

Sun ONE Application Server に問題が発生した場合は、次のいずれかの方法で Sun のカスタマサポートにお問い合わせください。

- オンラインの Sun Software Support Service
<http://www.sun.com/service/sunone/software>

このサイトには、Knowledge Base、オンラインサポートセンター、ProductTracker へのリンクと、保守プログラムおよびサポートに関する問い合わせ先電話番号が記載されています。

- 保守契約を結んでいるお客様の場合は、専用ダイヤルをご利用ください。

最善の問題解決のため、サポートに連絡する際には次の情報をご用意ください。

- 問題が発生した箇所や動作への影響など、問題の具体的な説明
- マシン機種、OS バージョン、および、問題の原因と思われるパッチやその他のソフトウェアなどの製品バージョン
- 問題を再現するための具体的な手順の説明
- エラーログやコアダンプ

コメントの送付先

Sun では、マニュアルの改善に努めており、お客様のご意見、ご提案をお待ちしております。Web ベースのフォームを使用して Sun にフィードバックを送ることができます。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

マニュアルの完全な名称と Part No. を適切なフィールドに入力してください。Part No. は、通常 7 ～ 9 桁の番号で、マニュアルのタイトルページまたは最初のページに記載されています。たとえば、このリリースノートの Part No. は 819-0934 です。

補足情報

次のサイトにも、Sun ONE に関する役に立つ情報が掲載されています。

- Sun ONE Application Server 製品のマニュアル
<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>
- Sun ONE のマニュアル
<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>
- Sun ONE プロフェッショナルサービス
<http://jp.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun ソフトウェア製品とサービス
<http://www.sun.com/software>
- Sun Software Support と Knowledge Base
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun サポートサービスおよびトレーニングサービス
<http://training.sun.com>
- Sun ONE コンサルティングサービスおよびプロフェッショナルサービス
<http://jp.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Developer Network
<http://developers.sun.com>
- Sun 開発者サポートサービス
<http://www.sun.com/developers/support>
- Sun ソフトウェアデータシート
<http://www.sun.com/software>

Copyright © 2004 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

本書の製品に使われている技術に関する知的所有権は、米国 Sun Microsystems, Inc. に帰属します。これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている米国特許、米国およびその他の国で取得済みまたは申請中の特許などがすべて含まれます。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

ご使用はライセンス条項に従ってください。

本製品には、第三者が開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商

標または登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

